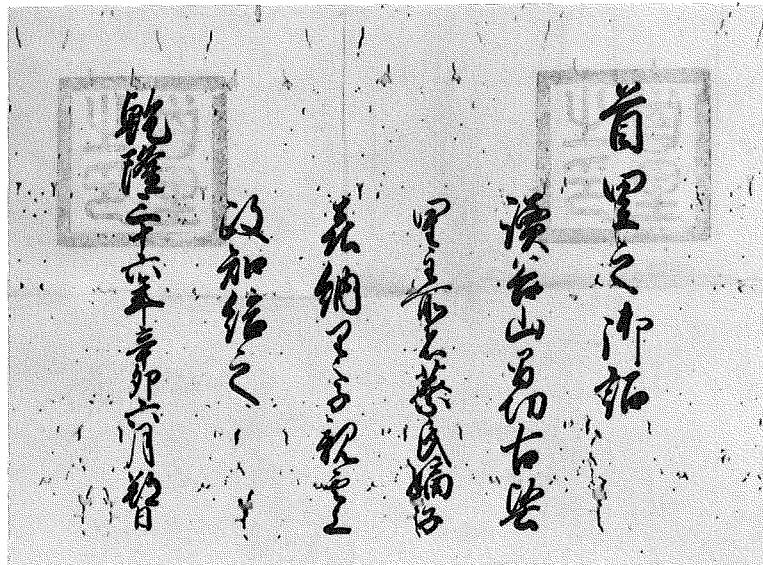


I S S N 0 3 8 5 - 0 2 9 3

沖縄県立博物館年報

No. 17



1 9 8 4

沖縄県立博物館

目 次

序	館長 大城立裕
沿革	1
日誌(抄)	3
予算	7
施設・設備	8
組織	10
事業	12
(1) 常設展	12
(2) 企画展	15
(3) 特別展	19
(4) 移動博物館	25
(5) 教育普及	28
(6) 資料貸出	29
(7) 煉蒸	29
(8) 調査・研究	30
(9) 刊行物	34
入館者数	35
(1) 入館者数	35
(2) 県内小中高入館一覧	36
収蔵資料	37
(1) 昭和58年度収蔵資料	37
(2) 収蔵資料現在高	37
(3) 昭和58年度新収蔵品目録	38
(4) 博物館所蔵国・県指定文化財一覧表	40
当館関係条例規則(抄)	41

※表紙写真 読谷山間切の古堅里主所安堵辞令書

序

沖縄県立博物館は、創立以来39年をへて、総合博物館としての体裁をととのえてきました。歴史、民俗、美術工芸、自然史という諸分野を網羅しています。いまのところ展示については「沖縄」に限られていますが、県内外からの来館者の知的欲求に対応しています。

4月に東宮御所魚類研究室から「クロオビハゼ」の副模式標本の寄贈を受けたのは、博物館としての機能を認められたものと解してよいでしょう。

このほかにも、県内外からの染織、民俗、歴史、昆虫、地学などの諸分野にわたる資料を寄贈していただきました。購入資料とあわせて、収蔵庫をいよいよ賑わすことになりました。

資料がふえるのは喜ばしいのですが、施設が極端に不自由になり、ついに企画展示室を収蔵庫に切り換えることになったのは、残念です。

館内の企画展示は不自由になりましたが、特別展示として、前年度の「熊本県の歴史と文化」展のあとを受けて、「沖縄の美—風土と美術工芸」展を熊本県立美術館で開催しました。移動博物館は、宮古島で開催しましたが、この事業はようやく全国的に高く評価されるようになりました。

文化講座は117回をかぞえ、学芸員の研究業績も成果をあげています。

総合博物館としての施設の拡充が、あいかわらずの大きな課題ですが、現在の条件下における年間の成果をここに報告して、御助言、御協力をおねがいする次第です。

昭和59年5月

沖縄県立博物館長 大城立裕

沿革

(戦前)

- 1936年7月 沖縄県教育会附設として「沖縄郷土博物館」が首里城内北殿を使用して開館される。文化財が数千点収蔵されていた。
- 1945年3～5月 沖縄戦で「沖縄郷土博物館」全焼。

(戦後)

- 1945年8月 米国海軍軍政府により残欠文化財が収集され、石川市東恩納に「沖縄陳列館」が設立される。
- 1946年3月 首里で首里城周辺の廃墟から残欠文化財の収集活動が行われ、「沖縄郷土博物館」が設立される。
- 1946年4月 沖縄陳列館は沖縄民政府に移管され「東恩納博物館」と改称。館長に大嶺薰就任
- 1947年12月 首里市の沖縄郷土博物館は沖縄民政府に移管され「首里博物館」と改称。
館長豊平良頭就任（1948年3月退職）
- 1948年8月 首里博物館長に原田貞吉就任
- 1953年5月 首里博物館は首里当蔵町の龍潭池畔に瓦葺の本館とペルリ記念館落成。首里博物館と東恩納博物館が合併。館長は原田貞吉、大嶺薰は退職
- 1955年5月 館長原田貞吉退職
- 1955年8月 館長山里永吉就任
- 1955年9月 首里博物館を「琉球政府立博物館」と改称
- 1958年8月 館長山里永吉退職
- 1958年9月 館長金城増太郎就任
- 1961年12月 館長金城増太郎退職
- 1962年2月 館長大城知善就任
- 1965年 首里大中町尚家跡土地購入（195,751ドル）
- 1966年10月 米国援助により、首里大中町の尚家跡に鉄筋コンクリート建（3,294m²、1階356,000ドル）の新館が落成移転。
- 1966年12月 中央教育委員会規則第58号「琉球政府立博物館管理規則」「琉球政府立博物館施設使用規則」、同59号で「琉球政府立博物館の職員の勤務時間及び勤務時間の割振りに関する規則」制定、入館料大人10仙、学生5仙、児童生徒2仙、団体2割引徵収決まる。
- 1967年12月 「琉球政府立博物館運営協議会規則」制定。
- 1969年3月 「琉球政府立博物館館報」創刊。

- 1969年11月 館長大城知善退職
- 1969年12月 館長外間正幸就任
- 1972年5月 日本復帰に伴い、館名を「沖縄県立博物館」と改称。
- 1973年2月 国庫補助を得て1,571m² (102,484千円のうち25,621千円国庫) 2階を増築。
展示室が3室ふえる。
- 1976年4月 創立30周年記念事業挙行。
- 1976年4月 入館料一般50円を100円に、大学・高校生を50円に、中小学生10円を20円に。
また、特別企画展の入館料は500円を超えない範囲内でその都度決めるよう
に改正。
- 1979年8～12月 空調・防災総替え工事2か年計画で着工、初年度は展示室のみ完了。
- 1980年1月12～2月3日 「救世熱海美術館名品展」ならびに「沖縄県立博物館名品展」
開催
- 1980年2月 第1回移動博物館、久米島具志川村、仲里村、両教委と共に催。
- 1980年3月 「沖縄県立博物館総合調査報告書—粟国島（あぐにじま）」創刊。
- 1980年10月 1979年度より2か年計画で定めた空調等総替え工事完了。
- 1980年5月16～18日 第2回移動博物館、今帰仁村、同教委と共に催。
会場 今帰仁村中央公民館
- 1980年11月1～30日 「失われた生物たち一大恐竜展」琉球新報、日本対外文化協会、
ソ連科学アカデミーと共に催。
- 1981年3月30日 当館、博物館法に基づき登録される。
- 1981年4月1日 館長外間正幸退職、同日館長に大城徳次郎就任。
- 1981年5月15～17日 第3回移動博物館（粟国村、同教委と共に催）
会場 粟国村公民館
- 1981年5月22～24日 第4回移動博物館、渡名喜村、同教委と共に催
会場 渡名喜村中央公民館
- 1981年10月17～11月15日 「沖縄の美—日本民芸館蔵—」展、併催「戦前の沖縄写真」
展、沖縄タイムス、日本民芸館と共に催
- 1982年5月22～23日 第5回移動博物館（伊江村、伊江村教委共催）が伊江村で開催
- 5月28～30日 第6回移動博物館（本部町、本部町教委共催）が本部町で開催
- 10月30～11月28日 熊本県・沖縄県交流展「熊本県の歴史と文化」開催
- 1983年4月1日 大城徳次郎館長勧奨退職、大城立裕館長就任。
- 11月8日 沖縄県・熊本県交流展「沖縄の美—風土と美術工芸—」
会場 熊本県立美術館（12月11日まで）
- 1984年2月23日 大嶺薰美術館収蔵品1,307件（3,427点）寄贈される。

日誌（抄）（昭和58年4月1日～昭和59年3月31日）

- 4月 1日 辞令交付式 於教育庁会議室。
大城立裕新館長、宣保栄治郎副館長、仲里富代主事着任。
- 2 特別文化講座「近代日本の民間学と沖縄」講師：鹿野政直教授（早稲田大学）
- 4 記者会見「久米島下地原洞穴出土人骨発見について」 於館長室。
- 9 三重県高田短大生130人来館。
- 10 新種「クロオビハゼ」パラタイプ標本が東宮御所魚類研究室より寄贈される。
- 13 記者会見「昭和57年度新収蔵品展について」 於館長室。
昭和57年度 県立博物館友の会理事会。
- 14 県立第二博物館構想検討会 於教育庁 館長出席。
- 15 防衛医大生90人来館。
- 16 「昭和57年度新収蔵品展」開催（5月8日まで）感謝状贈呈式。
- 18 昭和58年度 電力設備精密点検。
- 19 記者会見 「東宮御所魚類研究室寄贈クロオビハゼについて」 於館長室。
- 21 イタリヤ文化館長外2名来館。
- 22 鹿児島県議会事務局長外1名来館。
- 23 国立社会教育研修所長塩月氏来館。陶芸家中川伊作来館。第104回文化講座「蔡温とその政策」講師田里修氏。県立博物館友の会 昭和58年度総会。2階雨漏り検査
- 25 空調設備シーズン前点検。
- 26 大阪ドイツ文化センター館長H・J・ダインバアルナー氏、同陶芸家ゲルト・クナッパー両氏来館。
- 27 読谷村長山内徳信氏来館。
- 30 雨漏修理。
- 5月 1日 （絵巻き）舞楽図1巻、修理のため京都へ（石川市当間恵喜氏同行）。
- 2 辞令交付 津波古聰学芸員着任。
- 11 八木東宮御所待從来館。記者会見 1「第7回移動博物館について」、2「漆器展について」 於教育庁。
- 14 開発庁小玉次官来館。
- 17 企画展「琉球の漆器展」開催（6月12日まで）風俗絵図4点、歴史資料（かんざし等9点）が観宝堂より寄贈される。日本民芸館理事岡村吉右衛門氏来館。
- 20 第7回移動博物館 於平良市市民会館（22日まで）
- 25 八重山博物館学芸員新城剛氏研修のため来館。
- 27 沖縄県警察学校生43人職員3人来館。沖縄開発庁振興総務課長鏡味徳房氏来館。

- 文部省山口政志教科調査官来館。琉球放送「琉球の漆器展」テレビ録画。
- 28 沖縄開発庁企画課長藤田康夫氏来館。第105回文化講座「王朝時代の琉球漆器について」講師前田孝充氏。
- 31 県立博物館友の会事業計画。
- 6月1日 沖縄開発庁総務局長関通影氏来館。上江洲均、上江洲敏夫、当山昌直学芸員熊本市出張（沖縄県・熊本県交流展）。
- 2 教育次長又吉、平敷氏来館、漆器展と施設巡視。
- 8 日本電信電話公社計理局長岩下健氏来館。
- 10 教育庁機関長会議 館長出席。石垣市教育長浦本真正氏外3人来館。石川少年自然の家所長大嶺自吉氏外4人来館。
- 12 ハワイ二、三世沖縄研究交流団一行92人来館。
- 21 警察庁次長鈴木氏来館。
- 22 博物館協議会委員辞令交付式。アセアン記者団来館。
- 23 熊本県立美術館長小山岑雄氏来館。（沖縄県・熊本県交流展のため）。
- 24 小山館長、県知事、教育長表敬挨拶。
- 25 第106回文化講座「沖縄の地名」講師名嘉順一氏。
- 7月1日 県立博物館友の会、伊平屋、伊是名巡ぐり（3日まで）。中国科学院南京地質古生物研究所副所長卢衍豪氏来館。
- 9 第107回文化講座「宮古島史跡巡ぐり」出発。講師仲宗根将二氏・知念勇学芸員（知念、津波古学芸員同行）
- 11 定期熏蒸（16日まで）。
- 18 記者会見「沖縄昆虫同好会会員より寄贈された昆虫標本について」於館長室
- 20 記者会見「文化講座・昆虫教室について」 於館長室。
- 23 三笠宮憲仁親王御来館。東京芸術大学長山本正学長外2名来館。
- 26 企画展「夏休こども動物植物学習室」開催（9月4日まで）
- 28 東京都立教育研究所員湧井澄夫氏来館。
- 26 三味線「鳴口与那型」1丁、又吉康美氏より寄贈される。
- 30 第108回文化講座「昆虫教室」講師長嶺邦雄氏、外沖縄昆虫同好会。
- 8月3日 文化庁無形文化・民俗文化課調査官天野氏来館。
- 4 鹿児島県育英財団8名来館。旧尚家跡の石造品、高良一氏より返還される。
- 6 琉球昔鹿骨格標本が小村悦邦氏より寄贈される。（紹介者 長谷川善和氏）。
- 10 墓碑「円寂和尚」銘、康熙18年、玉陵東側より収集。
- 11 ペルー駐在大使野田氏夫妻来館。伊是名村文化財保存委員長仲田氏、銘苅家文書の件で来館。
- 12 教育庁文化課、館内の金石文調査。教育庁機関長全員来館。
- 14 第109回文化講座「陶芸教室」講師宮城勝臣氏

- 15 空調設備定期点検
- 17 日本キリスト教団東京北支区青年部来館。NHK福岡支局「おもろ関係資料」撮影。
- 24 自治大学副学長来館。
- 28 特別企画「標本鑑定会」午前10：00午後3：00まで。
- 9月6日 神戸在ドイツ総領事バウマン・エベルハルト夫妻来館。
- 13 民家模型「骨組」仲松蒲戸氏より寄贈される。
- 17 第110回文化講座「星の話」講師東盛良夫氏。
- 21 千葉県議会文京常任委員会朝比奈委員長外9人来館。
　　インドネシア大使館スリロー・アケショ一政治部長来館。
- 22 アルゼンチン国際移民局長アスコナ氏来館。
- 24 台風警報発令、午後から休館。(26日午前まで)
- 10月3日 ヤンバルクイナ外11点、文化課より寄託される。
- 4 ブラジルのDr. Jin 教授来館。
- 5 栃木県文教・警察委員会15人来館。
- 8 映画俳優穂積隆信氏来館。
- 9 神奈川県立博物館の松島章義氏来館。
- 11 沖縄県・熊本県交流展のための梱包作業始まる。
- 12 日本生命財団事業部長猪口氏来館。
- 15 日本民芸館の岡村、田中両氏「沖縄服装文化に関する調査研究」打ち合せのため来館。東京国立博物館漆器工室長荒川氏来館。
- 22 第111回文化講座「ヒマラヤの風土から」講師目崎茂和氏。
- 24 張子の屋根獅子1点那覇中学校より寄贈される。
- 25 石垣市立八重山博物館へ自然資料貸出。
- 26 前国税庁長官神田幸弘氏来館。
- 27 兵庫県監査委員会事務局長坂田実氏来館。
- 28 郡馬県議会17人来館。
- 29 県立博物館友の会研修。(本部半島巡り)
- 11月2日 記者会見「沖縄県・熊本県交流展について」於教育庁会議室。
- 9 愛知県知事来館。
- 22 中国音楽家代表団孫慎団長外5人来館。
- 24 元大阪市立博物館長平山敏治郎氏夫妻来館。
- 25 九州各県広報担当課長一行31人来館。
- 26 第112回文化講座「弥生前期土器を出土した真栄里貝塚について」講師高宮廣衛氏。
- 27 国立国会図書館長荒尾正浩氏来館。
- 29 中国の舞踊家薰錫久、俞虹両氏来館。昭和58年度第2回博物館協議会。

- 12月 7日 郵政省職員 2人来館。「沖縄大百科辞典」友の会より寄贈される。
- 12 岡村吉右衛門氏「沖縄服装文化に関する調査研究」の打ち合せで来館。
- 17 第113回文化講座「近世沖縄の海運と商活動」講師高良倉吉氏。
- 19 沖縄県・熊本県交流展の梱包届く。
- 22 煙蒸準備のため休館。熊本美術館長小山氏、交流展お礼のため来館。
- 23 煙蒸のために休館。(25日まで)
- 26 展示替え及び清掃のため休館。(27日まで)
- 1月 4日 御用始め、年始式。
- 5 展示オープン
- 6 沖博協理事会 於ひめゆりパーク
- 7 中国大使来館。
- 9 NHK日曜美術館班「安谷屋正義絵画」録画撮り。
- 11 地方法務局長来館。
- 18 青森県教育長二ツ森氏来館。静岡県議一行来館。
- 24 消火訓練予行演習。
- 26 定例消火訓練。
- 28 第114回文化講座「沖縄の獅子」講師長嶺操氏。県立博物館友の会新年会。
- 30 刀剣研修会 講師中谷臣志氏 於当館講堂。
- 2月 1日 鹿児島県沖之永良部より沖野氏(元高倉の所有者)来館。
- 2 岐阜県決算特別委数名来館。岡村吉右衛門氏「当館の衣服(4点)」調査。
- 4 岡村吉右衛門氏に紅型の型紙の鑑定をしてもらう。玉城朝薰生誕三百年記念事業会展示委員会。
- 7 沖縄の絵葉書(大正元年頃)24枚、北海道の合田氏より寄贈される。
- 8 日銀副総裁来館。
- 9 停電のため臨時休館。(午前中)大阪府議一行来館。
- 10 沖博協研修会 於ひめゆりパーク
- 14 中国民族学院民族研究講師胡起望氏外2人来館。鹿児島県黎明館川崎晃穂氏来館。
- 15 鹿児島の山田尚二氏の古文書を預かる。
- 23 大嶺薰美術館仮目録贈呈式 於教育長室。
- 25 「江戸上り絵巻」比嘉哲二氏より寄贈される。第115回文化講座「沖縄の両生爬虫類」講師当山昌直学芸員。
- 3月 9日 京都教育大教授松井栄一氏一行来館。
- 17 玉城朝薰生誕三百年記念事業会展示委員会。
- 21 鹿児島県黎明館吉元正幸、有村勲両来館。
- 24 第116回文化講座「那覇の今昔」講師崎間麗進氏。

予 算

昭和 58 年度博物館費（決算）

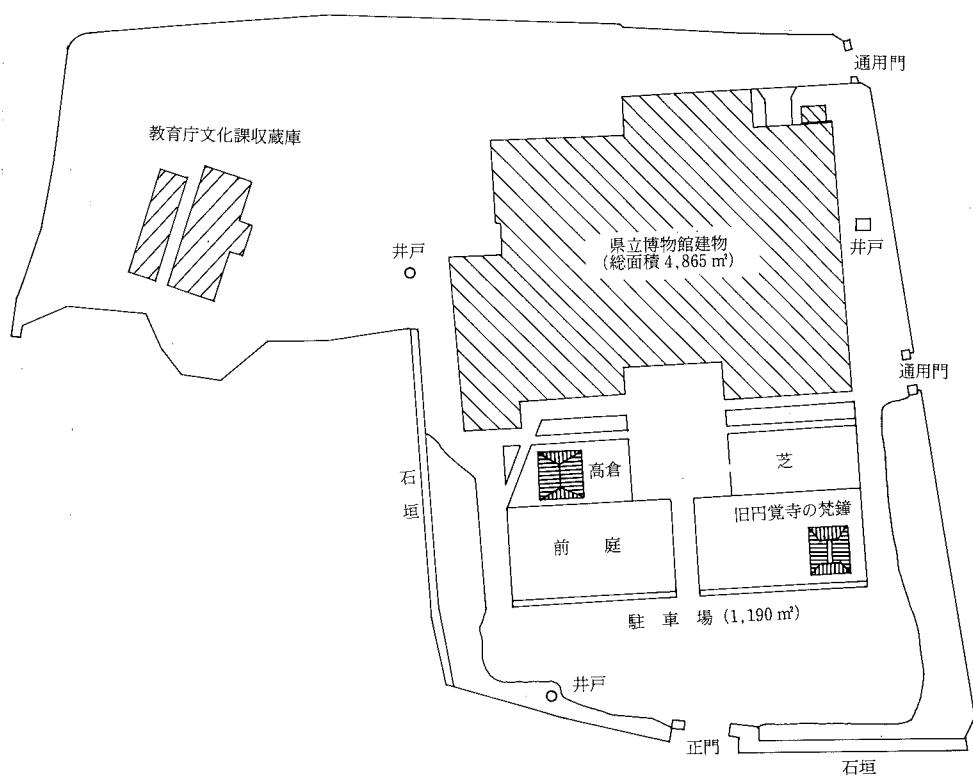
		博物館管理運営費	博物館特別事業費	博物館費
報	酬	98,600	0	98,600
貢	金	712,640	127,040	839,680
報	償 費	254,500	431,500	686,000
旅	費	824,406	1,976,470	2,400,876
	普 通 旅 費	(824,406)	(1,976,470)	(2,800,876)
需	用 費	23,761,588	5,615,500	29,377,088
	消 耗 品 費	749,094	660,135	1,409,229
	燃 料 費	74,124	0	74,124
	(食 糧 費)	(72,850)	0	(72,850)
	印 刷 製 本 費	1,488,660	2,761,365	4,250,025
	光 熱 水 費	20,495,150	0	20,495,150
	修 繕 費	881,710	2,194,000	3,075,710
役	務 費	1,445,961	3,211,280	4,657,241
	通 信 運 搬 費	900,060	3,211,280	4,111,340
	手 数 料	527,661	0	527,661
	保 險 料	18,240	0	18,240
委	託 料	9,982,000	1,864,100	11,846,100
	使 用 料 及 び 貨 借 料	108,760	0	108,760
	備 品 購 入 費	10,047,400	0	10,047,400
	負 担 金 補 助 及 付 交 金	64,000	0	64,000
	公 課 費	18,900	0	18,900
	合 計	47,318,755	13,225,890	60,544,645

昭和 58 年度歳入状況（決算）

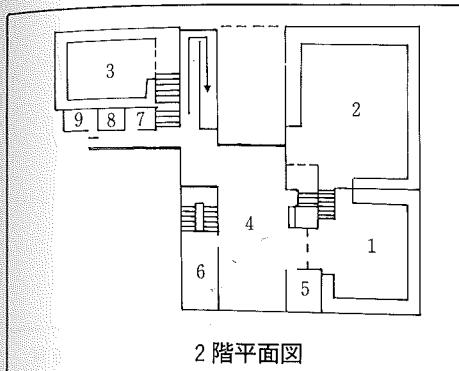
科 目 名	内 訳	常 設 展
博物館 使用 料		6,576,918
建 設 使 用 料		24,187
合 計		6,601,105

施設・設備

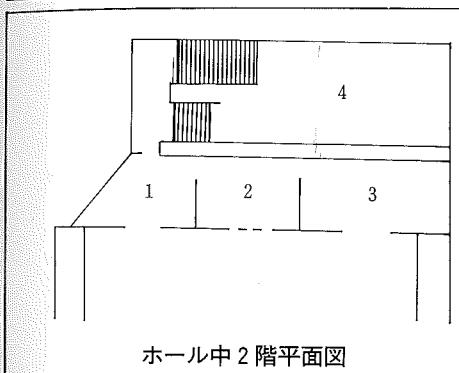
施設配置図



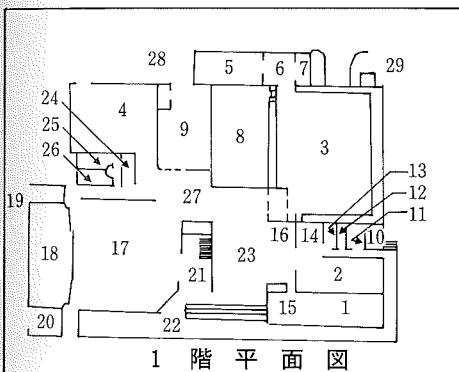
●概要



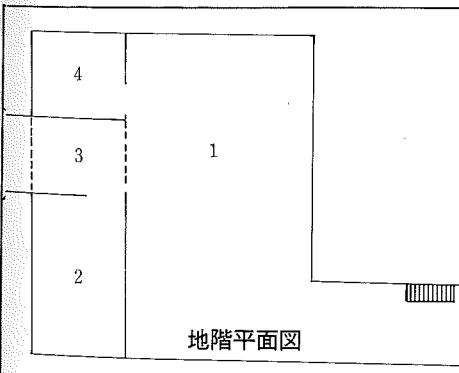
2階平面図



ホール中2階平面図



1階平面図



地階平面図

敷地面積 建物面積 (m ²)	11,246m ²
展示面積	1階 2,893 2階 1,571 計 4,865

ロビー面積	1階 632 2階 701 計 1,333
収蔵庫面積	513
駐車場面積	677
庭園面積	1,190
空調機能力	1,612

ヒートポンプ式チーリングユニット
125,000kcal/h×2機

エアハンドリングユニット
7機

パッケージ型エアコン

56,000kcal/h×1機

28,000kcal/h×1機

20,000kcal/h×2機

8,400kcal/h×1機

電灯 1φ3W 30KVA×1機

電灯 3φ4W 100KVA×1機

動力 3φ3W 200KVA×1機

動力 3φ3W 250KVA×1機

335Kw

客席数 1階434席

2階196席

計630席

変電室
契約電力
講堂

●室名と面積

2階 室番号	室名	面積 m ²
1	美術工芸展示室	265
2	民俗展示室	436
3	漆器収蔵室	170
4	ロビー	257
5	空調室	29
6	ホール控室	59
7	化粧室(女)	6
8	化粧室(男)	11
9	空調室	12

ホール中2階	面積 m ²
1 調光室	17
2 映写室	19
3 音響効果室	25

— 企画展示室 —

— 会議室等 —

— 休憩室等 —

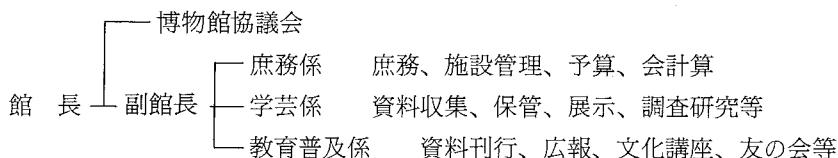
— 動物展示室 —

— その他 —

— 休憩室等 —

組 織 (昭和 59 年 5 月 1 日現在)

(1) 機構



(2) 職員構成

職名	氏名	担当業務	備考
館長	大城立裕	博物館業務の総理に関する事。	
副館長	宣保榮治郎	館長補佐、庶務係、学芸係、教育普及係との調整に関する事。	
庶務係長	幸地右雅	庶務、施設管理、予算、事業に関する事。	
主事	仲里富代	予算決算、会計事務に関する事。	
主事	上間尚子	庶務、歳入、事務に関する事。	
技師	下地栄	施設管理に関する事。	
学芸係長	上江洲均	学芸業務の統轄及び民俗資料に関する事。	
学芸員	上江洲敏夫	博物館資料の受け入れ、整理分類及び歴史資料に関する事。	
充主事	津波古聰	調査、研究、保存修理、写真撮影、沖博協及び美術工芸に関する事。	
教育普及係長	知念勇	教育普及業務の統轄及び考古資料に関する事。	
学芸員	当山昌直	教育普及、移動博、沖博協及び自然資料に関する事。	
学芸員補	与那嶺一子	教育普及、保存修理及び美術工芸に関する事	

表4

非常勤職員 (委託業務)	氏名	担当業務	備考
教育普及補助員	小野まさ子	解説員	
受付	西平節子	受付、一階ロビー監視に関する事。	
監視	東美智子	主として第一展示室	
〃	西平勝子	主として第三展示室と二階ロビー	
〃	本部光子	主として第四展示室	
〃	照屋カツ	主として第五展示室	

表5

非常勤職員	氏名	担当業務	備考
友の会	池宮城啓子	主として庶務	昭和 57 年 8 月 5 日採用

(3) 人事移動

職名	氏名	内 容
学芸員	津波古 聰	転入 県立森川養護学校から 58.5.1付(非常勤) 59.4.1付(本採用)
〃 〃	与那嶺一子	転入 石垣第二中学校から 59.4.1付
主事	上間尚子	転入 教育府財務課から 59.4.1付
主任学芸員	大城逸朗	転出 教育センターへ 59.4.1付
主事	村山佐代	転出 教育センターへ 59.4.1付
委託業務 (清掃業務)	金城ヨシ	退職 59.4.1付
委託業務 (宿直警備)	玉城清篤	退職 59.4.1付
委託業務 (教育普及補助員)	与那覇邦子	退職 58.3.1付
〃	小野まさ子	採用 58.9.1付

(4) 沖縄県立博物館協議会 (59.3.31 現在)

委員名簿

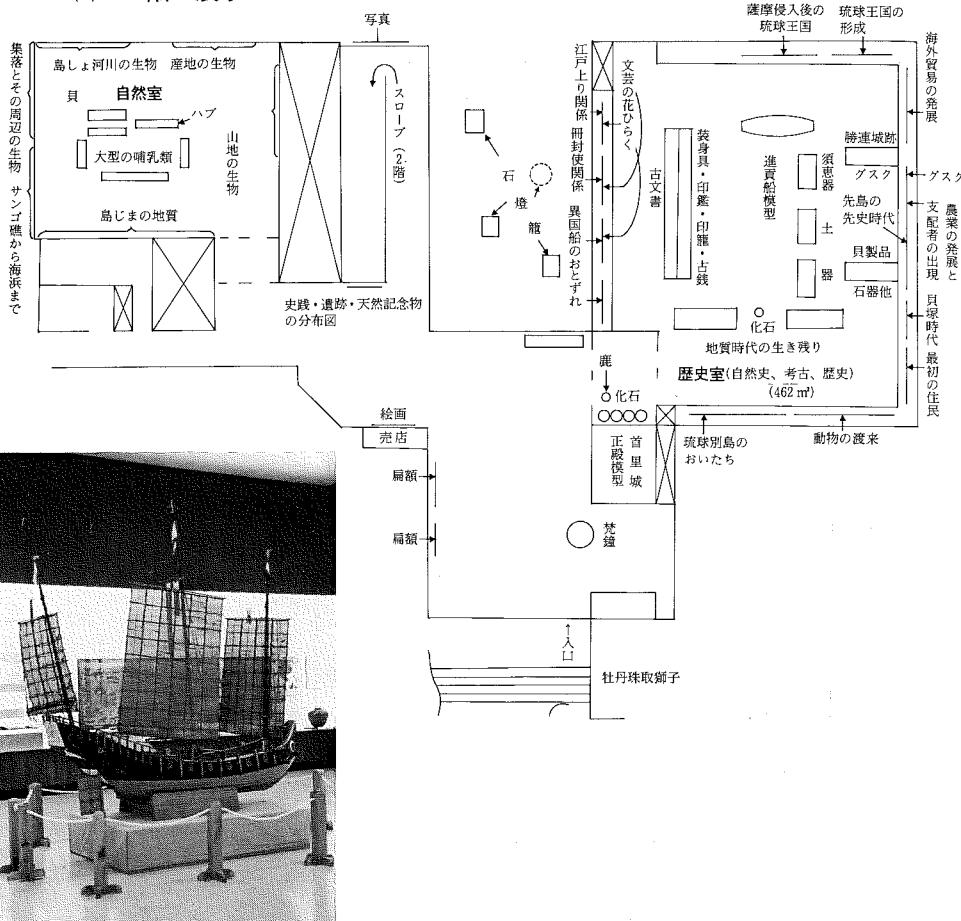
学識経験者	安次富 長昭 (会長)	那覇市石嶺 3-117-10	85-1653	琉球大学教育学部教授
	高宮廣衛 (副会長)	那覇市寒川町 1-23	34-3422	沖縄国際大学学長
	野原朝秀	南風原町新川 38	89-4789	琉球大学教育学部教授
	外間政彰	那覇市松尾 2-2-6	63-1955	那覇市立図書館長
学校教育関係者	宮城久一	那覇市松山 2-22 那覇中学校	34-5535	沖縄中学校長会長
	福地廣昭	那覇市久茂地 3-3-12	67-0161	沖縄県教職員組合副委員長
社会教育関係者	宮里 悅	那覇市大道 14-10	84-5333	沖縄婦人運合会会长
	照屋忠英	那覇市泉崎 1-2-14	66-2618	県議会文教厚生委員会員長
	馬場俊光	那覇市久茂地 2-2-2	67-3111	沖縄タイムス社編集局長
	外間正四郎	那覇市泉崎 1-10-3	67-1131	琉球新報論悦委員長

事業

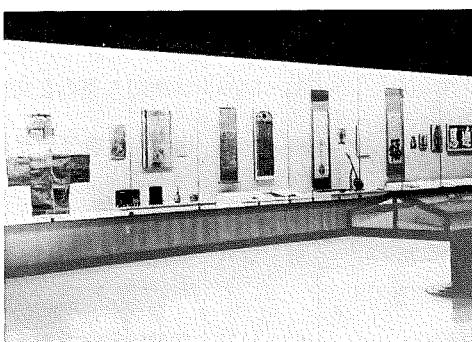
(1) 常設展

展示略図(常設展示)

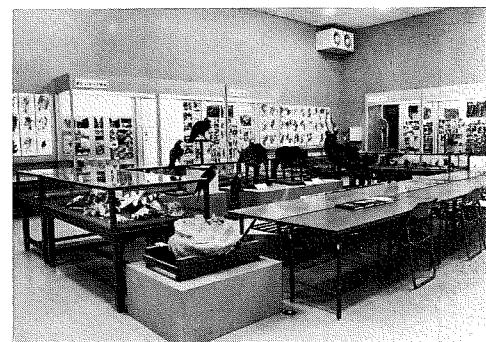
(1) 1階の展示



歴 史 室

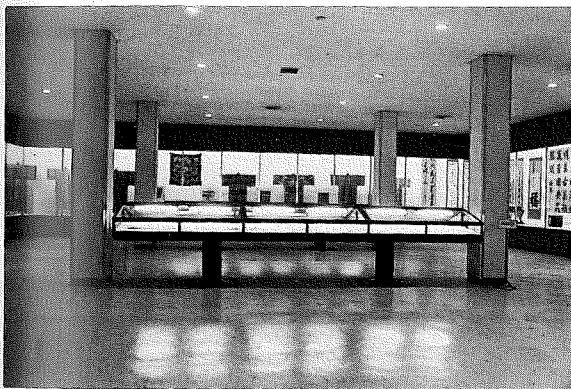
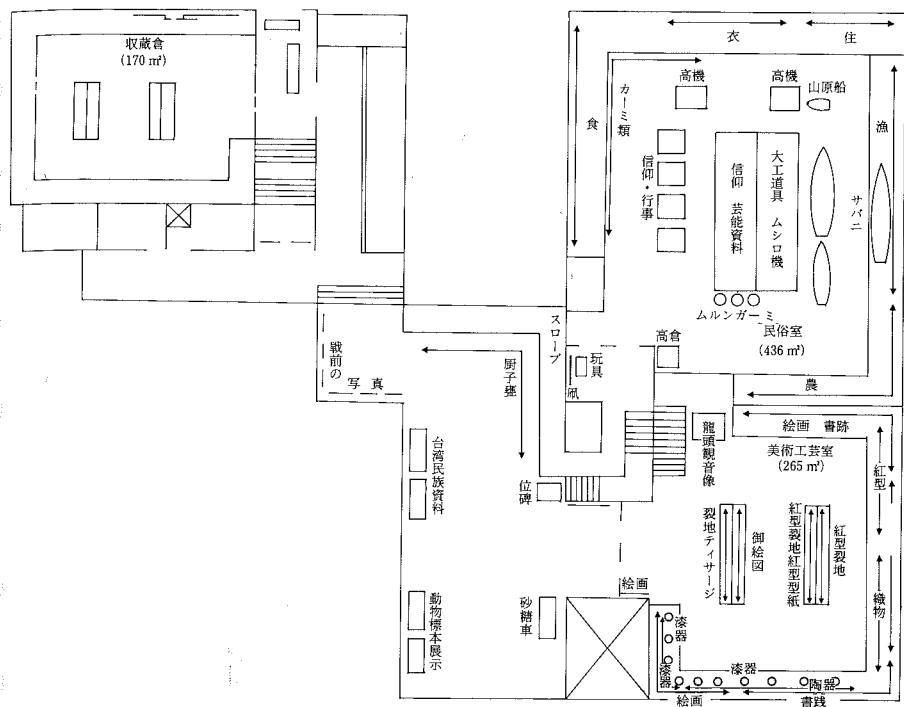


歷 史 室



自然室

(2) 2階の展示（常設展示）



美術工芸室



民俗室

展示室は1階「歴史室」(自然史・考古・歴史)「自然室」(沖縄の自然)で2階は「美術工芸室」(美術工芸全般)「民俗室」の4室がある。

「歴史室」は地質時代から始まる。まず「琉球列島のおいたち」とし、中世代白亜紀・新世代第三紀中新世・新第三紀鮮新世・第四紀のはじめ頃、第四紀中頃の古地図をパネルで示し、それに対応して、イリオモテヤマネコの骨格標本、ハブ類、リュウキュウイノシシなどの生物標本を展示した。

それに続く、原始・古代は、山下町第一洞穴遺跡出土の骨製品と港川人に始まり、原始古代の編年表に合せ、荻堂式・大山式土器等沖縄の代表的な土器と石器、骨器等を時代順に展し、それに続いて、宮古・八重山の原始・古代の土器・石器・陶磁器を展示、最後にグスク時代の出土遺物と写真パネルを展示した。

歴史時代は海外交易に関する首里那霸港図・八曲屏風・朝鮮鐘・陶磁器等を展示、続いて「琉球王国の形成」「薩摩入後の琉球王国」「江戸上りと冊封使」「文芸の花ひらく」「異国船のおとずれ」とノロ関係資料・おもろさうし・中山世鑑・奉使琉球図・江戸上り行列図・三昧線等を展示。

「自然室」は1・島じまの地質(岩石標本・鉱物標本・大型化石・港川人)、2・サンゴ礁から海浜まで(さんご礁の生物I・II、磯の生物・砂浜の生物・マングローブの生物)、3集落とその周辺の生物(人家付近の生物・耕作の植物他)、4・島しょ河川の生物(自然度の高い河川の生物・汚染された河川と生物)、5・低地の生物(低地の植物、低地の動物、鐘乳洞と中の動物)、6・山地の生物(山地の植物、渓谷の生物、岩山の生物、山地の動物)、7・その他大形の貝・イモ貝・タカラ貝の仲間・ヘビ・トカゲの仲間・大形のkg乳類(ケラマジカ・リュウキュウイノシシ)・ヤンバルクイナ等を展示。

「美術工芸室」は、沖縄の陶器(古我地焼・湧田焼・喜名焼・壺屋焼)琉球漆器・織物・紅型・絵画・書跡を展示。

「民俗室」は、琉球列島の民具を農業・漁業・衣・食・住に分けて展示し、今年から芸能関係の資料を展示した。また2階ロビーには、砂糖車・位牌・厨子甕とともに台湾関係の資料も展示した。

また今年新たに、2階ロビーに動物標本(ニホンカモシカ・カブトガニ等)と鎌倉吉太郎氏撮影の戦前の写真パネル(崇元寺石門・園比屋武御嶽・円覚寺等)を展示。

(2) 企画展

新収蔵展

会期：昭和58年4月16日（土）～5月8日（日） 会場：企画展示室

1 趣旨

前年度に寄贈を受けたり、購入、収集または交換を通じて得た資料を一般公開する目的で毎年開催している企画展。資料を紹介し、広く役立てることを目的とするもので、同時に資料を提出した方々へのお礼の意味をこめて開くものである。

2 展示内容

主な展示品として、自然史では、「沖縄産シダ植物標本」の一部、「沖縄産昆虫標本」の一部、美術工芸では、「八重山風俗図」、歴史資料では「琉客談記」「南浦文集」、考古資料では「中国陶磁」（寄託）、民俗では「三味線盛嶋開鐘」「野村流工四」などを展示した。57年度収蔵資料1558点のうち、凡そ1,000点を出品した。

3 展示品目録

(1) 購入の部

赤絵対瓶、上布着物2点（アヤヌナカーリ、ムルドウッチリ）、琉客談記、鄭嘉訓書（3点）、徐葆光書、陳元輔書、注楫書、鄭德潤書、ニホンカモシカ剥製標本、八重山産イノシシ剥製標本など26点。ほかに大型の「頭獅子」があるが、これは購入と同時に前庭に屋外展示物として設置した。

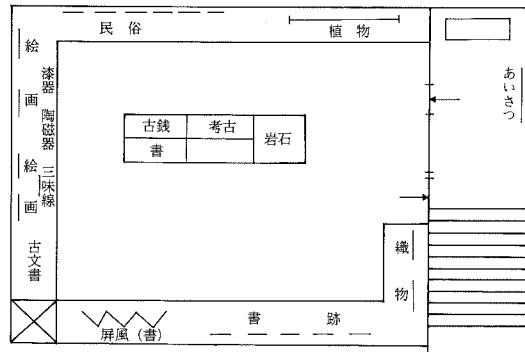
(2) 寄贈の部

港川人頭骨（レプリカ）、中国硯、世持橋勾欄羽目、八重山風俗図、三味線盛嶋開鐘、野村流工四、シダ植物標本、昆虫標本など1,558点のうち数百点を展示。

4 感謝状の贈呈

とくに多量または高額の資料を提供した寄贈者に対し、「新収蔵品展」開会の4月16日午前10時のテープカットの後贈呈式が行なわれた。尚裕氏（三味線盛嶋開鐘）と山内盛彬氏（野村流工四など12点）の両氏に対して教育長から、東清二氏（昆虫標本1,920点）、高良拓夫氏（シダ植物標本850点）、大山盛保氏（港川人頭骨）ら三氏に対しては館長からそれぞれ感謝状が贈呈された。

5 展示配置図



□ 琉球の漆器

会期：昭和58年5月17日（火）～6月26日（日） 会場：企画展示室

1 趣 旨

本県の伝統工芸のひとつである琉球漆器は、中国への進貢品や徳川幕府、その他への献上・進上品として製作され、高く評価されてきた。今回の展示会では当博物館所蔵の漆工品を一堂に集め、首里王府時代の漆芸技術の高さと広さを理解する機会をつくるとともに、広く県民の伝統工芸に対する意識の高揚と普及をはかることを目的とした。

2 展示内容

展示方法はできるだけ多くの器形を加飾別に配置し、技法・文様・種類が理解しやすいように展示した。また、木地や下地を知る資料として残欠を展示し、壁面には戦前、鎌倉芳太郎氏が撮影した漆工芸品の写真パネルを展示した。

3 展示品目録

沈金：「朱漆巴紋鳳凰七宝繫沈金丸櫃」他（17点）、螺細：県指定「黒漆雲双龍螺鈿椀」、県指定「黒漆遊雁螺鈿料紙箱」他（28点）、箔絵：「朱漆山水人物七宝繫箔絵野弁当」他（24点）、堆錦：県指定「黒漆山水樓閣人物堆錦料紙箱」他（13点）、密陀絵：「白密陀山水樓閣人物漆絵箔絵膳」他（1点）、漆絵・堆朱：朱漆山水人物漆絵湯庫他（3点）、参考展示：中国・日本の漆器、大正・昭和期の琉球漆器及び残欠」（60点）

4 文化講座

「王朝時代の琉球漆器について」

講師 前田孝充（漆芸家）

期日 昭和58年5月28日（土）

場所 博物館講堂

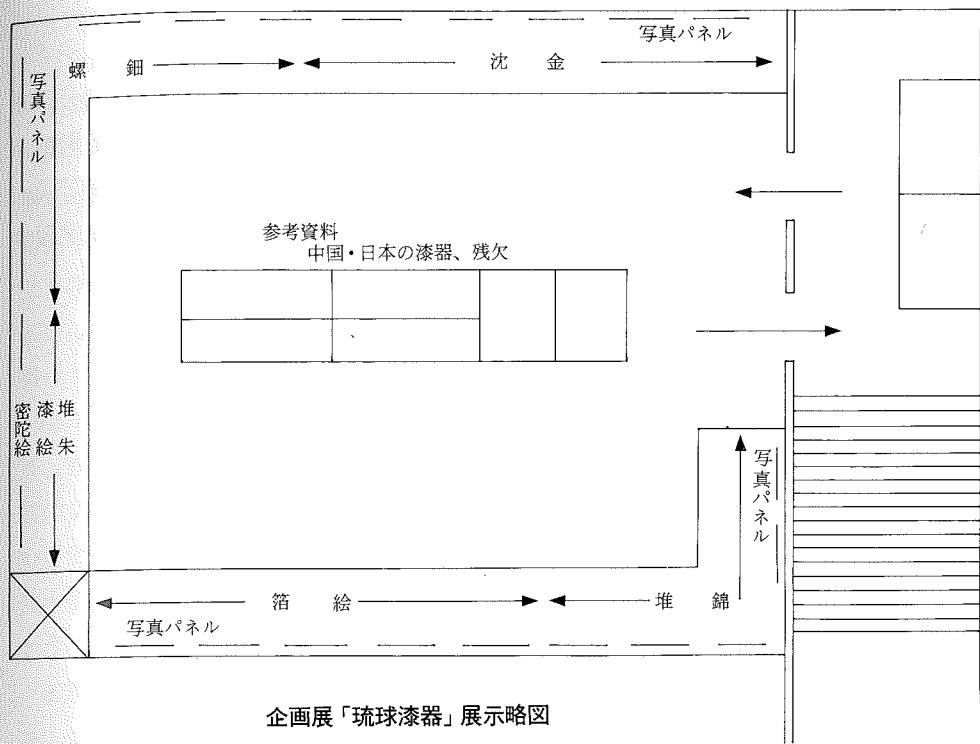
※ 講座は途中から企画展示室へ移動し、展示物を観覧しながら行なった。

5 その他

印刷物：図録「琉球の漆工芸」B5版53ページ 1,400部

6 備 考

沖縄で最初の本格的な漆器展ということで、漆芸にたずさわる人々も多数来館し、予想以上の反響を得た。このため当初予定していた期間（5月17日～6月12日）を2週間延長して6月26日まで行なった。



企画展「琉球漆器」展示略図



ハ 夏休み子ども動植物学習室

会期：昭和58年7月26日（火）～9月4日（日） 会場：2階ロビー

1 趣旨

わたしたちの身のまわりにはいろいろな生き物がすんでいる。子どもたちは、自分の身のまわりの生き物に強い興味を示す時期にある。ところが、沖縄の生物に関する資料が少ないため、調べても名前がわからない、名前があつて自信がないといった状況では、子どもたちの可能性を伸ばすこともできない。そこで、夏休みの子どもたちに自主学習の場を提供するため、沖縄産の身近かな動植物の標本を展示した。

2 展示内容

A、標本

- 1) 身近かな植物 約200種
- 2) トンボ、チョウ、甲虫など主な昆虫 約300種
- 3) 沖縄の浜辺でみられる貝 約150種

B、標本の作り方

- 1) 植物標本の作り方：用具と標本のつくりかたの順序を展示
- 2) 昆虫標本のつくりかた：用具と標本のつくりかたの順序を展示

C、資料

動植物の図鑑類の閲覧コーナー

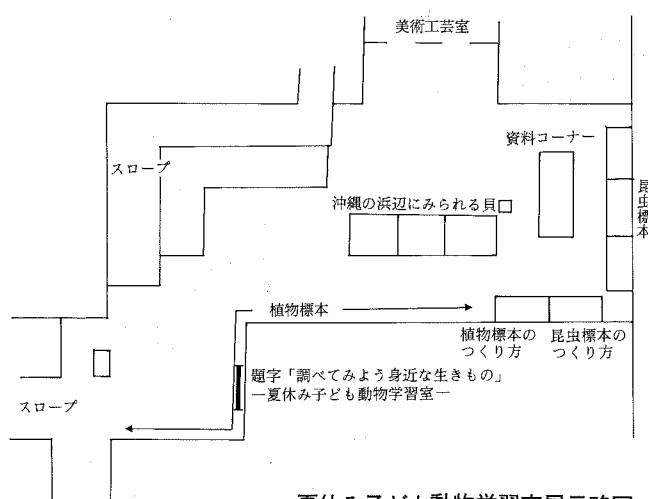
2 文化講座

「昆虫教室」 講師 長嶺邦雄 他沖縄昆虫同好会会員

昭和58年7月29日（土） 那覇市末吉公園 （教育普及の項を参照）

4 その他

「標本鑑定会」 昭和58年8月28日（日） （教育普及の項を参照）



夏休み子ども動物学習室展示略図

(3) 特別展

沖縄県・熊本県交流展『沖縄の美—風土と美術工芸—』

会期：昭和58年11月8日～12月11日 会場：熊本県立美術館

本県にとって熊本県は第二次大戦中の疎開地であり、その後の交流を踏まえて発足した「熊本・沖縄県連絡協議会」で、いろいろの事業を行なってきた。その多くは産業・文化事業の振興と提携が中心であるが、昭和56年度の第10回連絡協議会において、両県の古美術品等を交換展示する「熊本県・沖縄県交流展」の開催が決定された。

その決定事項にしたがって、初年度の昭和57年10月30日からひと月間、当館において「熊本県の歴史と文化」展を催した。内容は、美術工芸ばかりでなく自然・考古・歴史と熊本県のすべてが概観できるような総合展示になり、県民に深い感銘を与えた。

58年度は、11月8日から熊本県立美術館において、標記のテーマで開催されることになり、館をあげて諸準備にとりかかった。「沖縄の美」展は、熊本側の要望もあって、沖縄独特の文化の中から生まれた優れた美術工芸品を中心に、それらを生みだす基盤である明るい自然や民俗文化の紹介につとめることになった。交流展に寄せる両県の関心は高く、出品点数はおよそ500点に達した。熊本県立美術館の本館2階3室と別館を充てるほどの大がかりな展観となった。

資料の不足を補うために、東京国立博物館、徳川黎明会、日本民芸館、大和文華館、サントリーナ美術館をはじめ、県内の博物館や資料館または個人の協力を得て実現したのである。可能なかぎりの指定物件が一堂に集められ、展示公開されたことは沖縄においてさえかつてないことであった。

開会式には、県から比嘉副知事、新垣教育長が出席した。また、沖縄文化の理解のためを開催した、日本民芸館顧問柳悦孝氏、当館大城立裕館長を講師とする講演会は、多くの聴衆を魅了した。

また、この交流展に侧面から協力してきたのが沖縄県人会であった。疎開関係資料やその後の交流の歩みを知る資料などを提供してくれたのはこの人たちであり、また「交流展」の開催を誰よりも喜んでくれたのもこの人たちであった。

交流展示資料目録

(所有者：敬称略)

本 館

第II室

考 古

渡久知東原遺跡出土の爪形文土器・打製石斧（読谷村歴史民俗資料館） 渡具知東原遺跡出土の曾煙式土器・石斧（読谷村歴史民俗資料館） 嘉手納貝塚出土の荻堂式土器 大山貝塚出土の大山式土器・カヤウイバンタ式土器 伊波後原遺跡出土の白磁（当真嗣一） 浦添城出土の高麗瓦 佐敷グスク出土の鉢形土器・石鍋片・青磁片（佐敷町教育委員会） 勝連城跡出土の元染付片・青磁片・陶器片・古錢・鉄製品・御物グスク出土の中国陶磁

歴史資料

◎重要文化財 ○県指定

守礼門模型 「旧首里城正殿鐘」鐘名（拓本）鐘は○ 首里那霸港図（八曲屏風） 進貢船（模型） 宣徳香炉 首里城跡採集の青磁碗 ルソン南蛮 シャム南蛮 ○おもろさうし ○混効驗集 ○中山世鑑 ○蔡鐸本中山世譜 ○伊平屋島仲田の首里大屋子への辭令書 ○大宮古間切下地の首里大屋子への辭令書 ○明孝宗より琉球國中山王尚真への勅書 ○田名家文書（田名 弘） ○羽地間切屋我のろへの辭令書 ○三味線志多伯開鐘（金城紀光） ○三味線江戸与那 舞楽図 ○聞得大君御殿雲龍黄金簪 神扇 曲玉御玉貫

絵 画

花鳥図・吳師度筆（大和文華館） 虎の図・双幅館 ○白沢の図・自了筆（米須清方） ○花鳥図・殷元良筆 ○雪中雉子の図・殷元良筆 山水図・吳著温筆 江戸上り行列図 ○冊封使行列図 ○奉使琉球図 李白觀瀑図・伝自了筆 首里旧城の図・査丕烈筆 美女の図・真榮城親雲上筆 うやんまあの図

書 跡

漢詩・尚育王書 対句・尚慎書 和歌「紅葉如醉」・宣湾朝保書 対句・鄭嘉訓書漢「真珠湊碑文」（拓本） 「中山第一」・徐葆光書（拓本）

第II室

紅 型

絹・稻妻に花の丸文様衣裳 木綿・斜格子扇菊橘梅花文様衣裳 木綿・染分地山波菊菖蒲椿柴垣文様衣裳 麻・霞に鶴松梅楓文様子供着 麻・花龍に柳飛燕文様衣裳 麻・鶴に千鳥貝藻文様衣裳 木綿・飛鳥に流水蛇籠葵菖蒲文様衣裳 木綿・斜格子に菊梅牡丹文様子供着 木綿・霞に枝垂桜文様衣裳 麻・笠に藤流水蛇籠に葵菖蒲文様衣裳（沖縄県立図書館） 垣根に牡丹鳳凰文様衣裳（大和文華館） 霞に菊牡丹文様衣裳（大和文華館） 牡丹文様衣裳（大和文華館） 紅型牡丹鳳凰文様衣裳（日本民芸館） 芋麻・白地牡丹鳳凰文様衣裳（日本民芸館） 木綿・藍型菖蒲文様衣裳（日本民芸館） 芋麻・松竹梅鶴亀文様舞台幕 芋麻・紅型菊文様風呂敷（日本民芸館） 芋麻・藍型牡丹文様風呂敷（日本民芸館） 麻・牡丹に桐鳳凰文様衣裳部分 桐板・鉄線花文様裂 木綿紅型小柄見本裂 雲に鳳凰桐槽様御紙 桐に菊牡丹文様型紙

織 物

木綿・浅地ロートン織袷上衣 芭蕉布・朱地絹縞上衣 木綿読谷山花織袷上衣 木綿・紺地手縞織袷上衣 絹・絹縞久米島紺袷上衣 木綿・浅地絹つなぎあわせ胴衣 白麻・八重山上布スディナ 芋麻・黄地格子と絹上衣（日本民芸館） 木綿・紺絹綿衣上衣（日本民芸館） 桐板・白地茶藍絹縞上衣（日本民芸館） 黄芭蕉紺織上衣（日本民芸館） 絹・花織と格子上衣（日本民芸館） 絹・花織衣裳上衣（日本民芸館） 絹・杢格子上衣（日本民芸館） 白地絹ティーサージ 紺地ティーサージ 木綿・地読谷山花織ティーサージミンサー帯 御絵図帳 絹・久米島紺裂地

定
進
ろさ
の辞
の勅
（金
貫
方）
○
女の

「真

蘭
鴉
に
文様
立図
牡
鳳凰
文様
民芸
雲に

館・
八
日本
情・
（日
ジ

第三室

漆工芸

朱漆花鳥七宝繫密陀繪沈金御供飯（徳川黎明会） 朱漆花鳥繫密陀繪沈金足付盆（徳川黎明会） 黒漆桃枝七宝繫沈金足付盆（大和文華館） 朱漆双鳥椿沈金足付盆（サントリー美術館） 朱漆巴 牡丹沈金御供飯 朱漆巴織牡丹唐草七宝繫沈金足付盆 朱漆巴織牡丹唐草七宝繫沈金椀（蓋付） 朱漆牡丹唐草七宝繫沈金椀 朱漆巴織牡丹唐草沈金天目台（蓋付） 朱漆巴織牡丹七宝繫沈金食籠 朱漆巴織牡丹七宝繫沈金化粧小箱 朱漆巴織鳳凰七宝繫沈金丸櫃 朱漆牡丹七宝繫沈金六角食籠（サントリー美術館） 朱漆山水樓閣人物吉祥文七宝繫沈金丸盆（沖縄館） 黒漆家織葡萄栗螺鈿胡ろく（東京国立博物館） 黒漆雲双龍螺鈿丸盆 ○黒漆雲双龍螺鈿椀（蓋付） ○黒漆遊雁芦螺料紙箱 潤塗葡萄栗螺鈿絵料紙箱・硯箱 朱漆樹下群仙螺鈿堆錦六稜花形合子 黒漆祥瑞螺鈿揚子容 潤塗雲鶴螺鈿香合 黒漆群馬遊雁螺鈿印籠 黒漆仙人遊棋花鳥螺鈿茶壇 黒漆山水樓閣人物螺鈿中央卓 黒漆山水人物行楽図螺鈿飾棚 黒漆山水樓閣七宝繫螺鈿八角食籠 黒漆鳳凰牡丹螺鈿馬上盆 朱漆箔押蝶絵網代花弁形東道益 朱漆山水樓閣人物箔絵菊花形食籠 朱漆鳳凰瑞箔絵小櫃 朱漆山水樓閣人物丸形東道益 潤塗松竹梅鶴亀箔絵捌箱 朱漆松竹梅鶴亀箔絵櫃 朱漆山水樓閣人物箔絵折敷 朱漆山水樓閣人物箔絵湯庫 朱漆菊唐草堆錦食籠（東京国立博物館） ○黒漆樓閣山水人物堆錦料紙箱 朱漆山水樓閣人物葡萄堆錦料紙箱 朱漆山水樓閣人物堆錦椀 朱漆山水樓閣人物堆錦丸型東道益 朱漆山水樓閣人物堆錦八角東道益 朱漆山水樓閣人物堆中央卓 黒漆薔薇堆錦軸益 朱漆菊唐草堆錦螺鈿台 白密陀山水樓閣人物箔絵膳 黒漆餡鳳麒麟牡丹梅密陀繪箔絵盆（サントリー美術館） 朱漆孔雀牡丹箔絵密陀繪足付盆（徳川黎明会） 朱漆龍花鳥密陀繪箔絵野弁当

陶器

○赤絵枝梅竹文碗 ○象嵌色差面取抱瓶 ○線彫染付魚文皿・伝仲村渠致元作 ○色象嵌粟絵菊花皿・仲村渠致元作 白釉黒流からから 赤絵対瓶 象嵌やはた文渡名喜瓶 赤絵山水急須 掛分徳利 緑釉流対瓶 鉄絵碗 呉須山水竹文筒花生 二彩流筒型花生 緑釉花弁型盛皿 飴釉流飛鉢火取 緑釉碗 アンダ・ガーミ 釘彫抱瓶 緑釉嘉瓶 飴釉流なまこ釉香炉 なまこ釉からから 葉柳文徳利 呉須絵山水文丁子風炉 赤絵魚文皿 黒漆巴文嘉瓶 古我知焼水甕

別館

自然

● 国指定特別天然記念物 ○ 国指定天然記念物 ○ 県指定天然記念物

沖縄のセミ：ニイニイゼミ クロイワニイニイ ミヤコニイニイ ヤエヤマニイニイ イシガキニイニイ クマゼミ リュウキュウクマゼミ ヨナクニクマゼミ ヤエヤマクマゼミ リュウキュウアブラゼミ ダイトウヒメハクゼミ オキナワヒメハルゼミ イワサキヒメハルゼミ オオシマゼミ クロイワツクツク イシガキヒグラシ タイワンヒグラシイワサキゼミ ツマグロゼミ イワサキクサゼミ クロイワツクツク クロイワゼミ

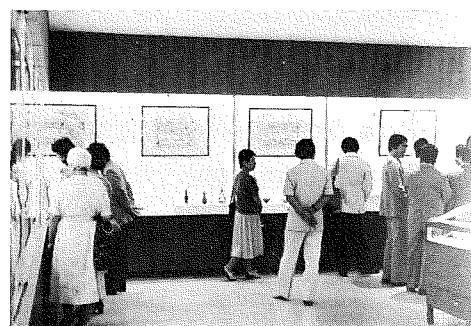
沖縄のチョウ：オキナワカラスアゲハ リュウキュウヒメジャノメ マサキウラナミジャノメ リュイキユウラナミジャノメ ヤエヤマウラナミジャノメ アサヒマキマダラセセリ ジャコウアゲハ アオスジアゲハ ミカドアゲハ シロオビアゲハ クロアゲハ ナガサキアゲハ カラスアゲハ ナミエシロチョウ ツマベニチョウ オオゴマダラ ルリタテハ ○コノハチョウ ヤエヤマイチモンジ ○フタオチョウ スミナガシ テングチョウ イワカワシジミ ルリウラナミシジミ ヒメウラナミシジミ タイワンクロボシシジミ タイワンツバメシジミ リュウキュウウラボシシジミ クロセセリ アオバセセリ ベニモナゲハ タイワンキチョウ ウラナミシロチョウ ウスキシロチョウ カバマダラ スジグロカバマダラ リュウキュウアサギマダラ シロオビヒカゲ ウスイロコノマ メスマカムラサキ アオタテハモドキ リュウキュウミセジ オジロシジミ アマミウラナミシジミ ハマヤマトシジミ オキナワビロウドセセリ タイワナオバセセリ バナナセセリ コウトウシロシタセセリ クロボシセセリ オオシロモンセセリ ネッタタイアカセセリ ヒメイチモンジセセリ アゲハチョウ モンキアゲハ アサギマダラ ヒメアカタテハ アカタテハ ツマグロヒョウモン イシガケチョウ オナシアゲハ タイワンキマダラ ウラベニヒョウモンモドキ ヤエヤマムラサキ リュウキュウムラサキ ホリイコシジミ ソテツシジミ 特殊動物：リュウグウオキナエビス ○イボイモリ ナミエガエル イシカワガエル ホルストガエル ○リュウキュウヤマガメ ○セマルハコガメ ○クロイワトカゲモドキ ○キシノウエトカゲ ハイ ヒメハブ ハブ サキシマハブ ●ノグチゲラ（国頭村教育委員会） ○ヤンバルクイナ（教育庁文化課） ○ケナガネズミ（教育庁文化課） オリイオオコウモリ リュウイユウイノシシ ●イリオモテヤマネコ（竹富町教育委員会） 他：アダン サンゴの残骸を含む砂利 星砂を含む砂

民俗

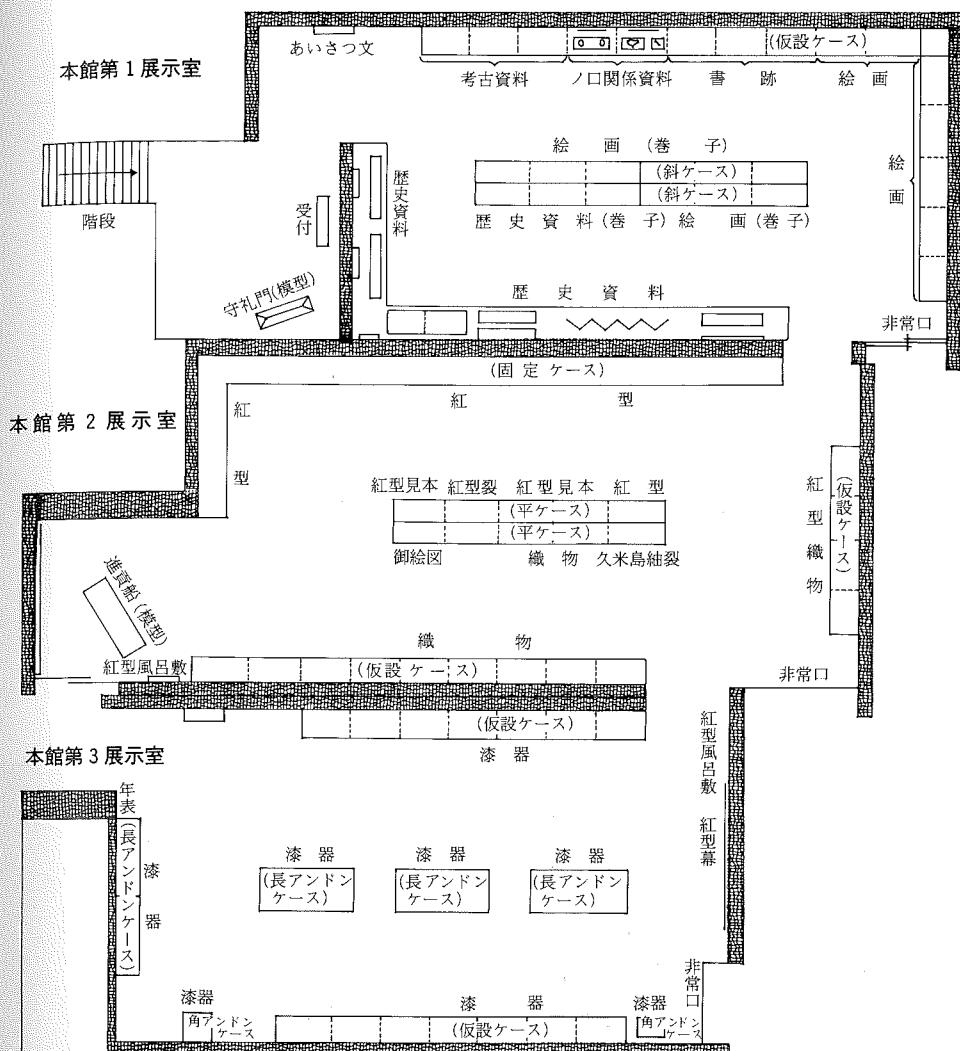
サバニ（松くり舟） 一本鉈 三本鉈 標 又手網 石輪 宝貝網 水中眼鏡 あかとり ワラグチ（藁沓） 魚師用煙草入 魚師笠 海籠 うけ 四流旗（八重山博物館） 天蓋（八重山博物館） 爐 石厨子 上焼本御殿型厨子甕 上焼ツノ型厨子甕 上焼コバルト掛厨子甕 底つき焼締め壺型厨子甕 吉我地焼厨子甕 位牌〔付属品10点〕 扇（八重山博物館） 張り子 手まり



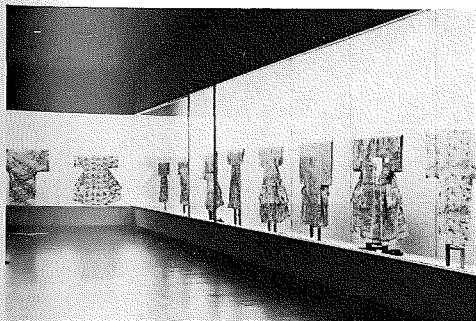
考古



歴史



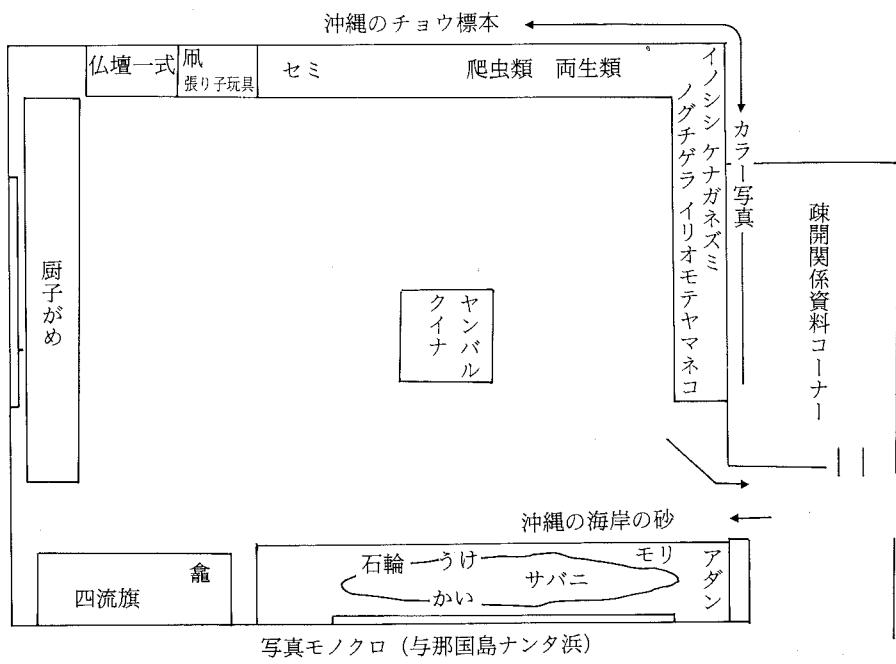
本館展示略図



美術工芸



美術工芸



写真モノクロ（与那国島ナンタ浜）

交流展展示略図（別館）



疎開関係



自 然



民 俗



民 俗

(4) 移動博物館

第7回「移動博物館」

会期：昭年58年5月20日（金）～5月22日（日） 午前9時～午後6時

会場：平良市市民会館

観覧料：無料

主催：沖縄県立博物館・平良市・平良市教育委員会

後援：下地町教育委員会・城辺町教育委員会・上野村教育委員会

伊良部町教育委員会・多良間村教育委員会

協賛：有村産業・南西航空

1 趣 旨

以前、当館にて催された「大恐竜展」は、特に恐竜を待ち望んでいた子供たちに喜ばれ、多くの県民に利用された。しかしながら、宮古郡の県民、特に児童生徒は距離的に遠く離れているということで見学にいきたくともそれができなかった。前回までの「移動博物館」では、地質・生物・考古・民俗・美術工芸、写真パネル等、いわゆる総合博物館としての資料をそのまま遠隔地まで運び展示するというものであったが、前述の実状もあって、恐竜を中心とする展示の内容になった。

2 展 示

(1) 恐竜を中心とする先カンブリア時代から新生代までの古生物

(2) 戦前の沖縄写真展

3 講 演 会

日時：5月21日（土）午後2時30分～4時30分

(1) 「宮古島の古生物化石について」 安谷屋 昭（宮古教育事務所指導主事）

(2) 「沖縄の文化について」 大城 立裕（沖縄県立博物館館長）

4 ビデオ（映写会）

(1) 戦前の沖縄：「琉球の風物」・「琉球の民芸」

5 入 場 者

	小 人	大 人	合 計
5月20日（金）	1,395人	205人	1,600人
5月21日（土）	2,490人	880人	3,370人
5月22日（日）	3,318人	1,492人	4,810人
総 計			9,780人

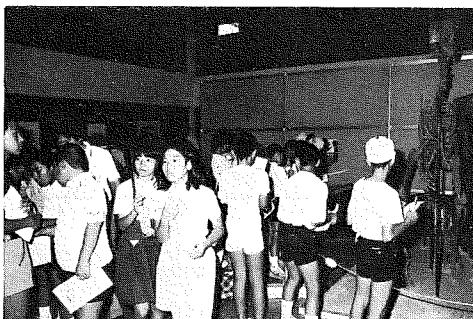
6 備 考

会期中は梅雨の時期にあたっており、展示期間中も雷を伴う雨が降り続き、天候には恵まれなかった。にもかかわらず、一万人近くの宮古の人々が利用した。

7 展示品目録

〈自然史〉 コレニア サンヨウチュウ カブトガニ 腕足貝 ウミユリ フズリナ
ペルムナイト アンモナイト オウムガイ オウムガイの化石 タルボサウルスの指趾
骨 恐竜の卵の化石 プロバクトロサウルスの全身骨格 始祖鳥 パレイアサウルス
の全身骨格 タルボサウルスの頭骨 プロトケラトプスの卵 プロトケラトプスの全身
骨格 サウロロフスの全身骨格 ベビーマンモスの全身骨格 マンモスの歯 マンモス
の毛 トリロホドンゾウの歯 ゴンホテリウムゾウの肋骨小頭部 ミヤコシマジリクジ
ラの後頭部 クジラの顎骨・肋骨 オオホホジロザメの歯牙 ミヤコノロジカの頭骨 ピ
ンザアブ人骨

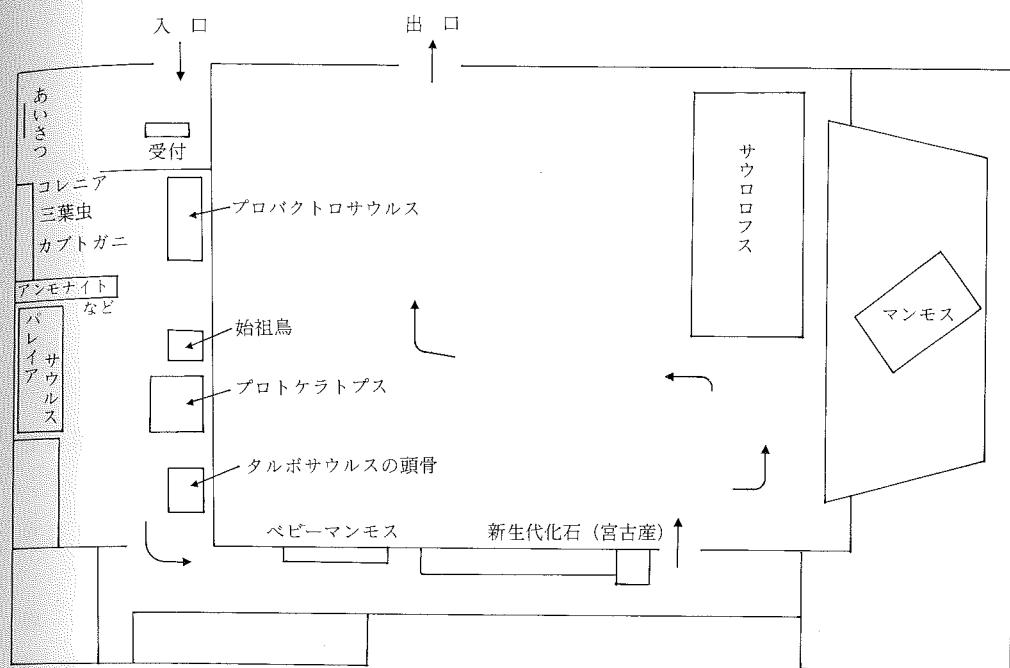
〈戦前の写真〉 守礼門 首里城歓会門 首里城正殿 首里城白銀門 首里城南殿 首
里那覇全図 歓会門 歓会門前石獅子 首里那覇図屏風 首里城南殿書院裏庭 龍樋
円覚寺仏殿 園比屋武御嶽石門 弁ヶ嶽 弁財天堂 玉陵 弁ヶ嶽石畳 崇元寺石門
放生池石橋 尚真王 天尊廟 中城御殿正門 讀谷山御殿正門 御茶屋御殿 真玉橋
波之上 松並木のある風景(那覇市) 酒造家(首里城添繼御門外) 首里的獅子舞い
石燈籠 皮弁服 皮弁冠 浮彫牡丹文石燈籠 放生池橋の石獅子 風景(那覇市内) 民
家(久米島真謝) 地蔵堂 壺屋 壺屋の陶工 農家(浦添牧港) 魚市場 上里旅館
(久米島儀間) 壺屋上焼窯 城岳拝所 識名園 葬式(糸満) サーターヤー 墓(首
里) 市場 綱引き旗頭(与那原) 白作り 街かど 瓦窯(与那原) ようどれ拱門
宮古島観音堂 宮古の天然橋 宮古宮里商店 (合計68点)



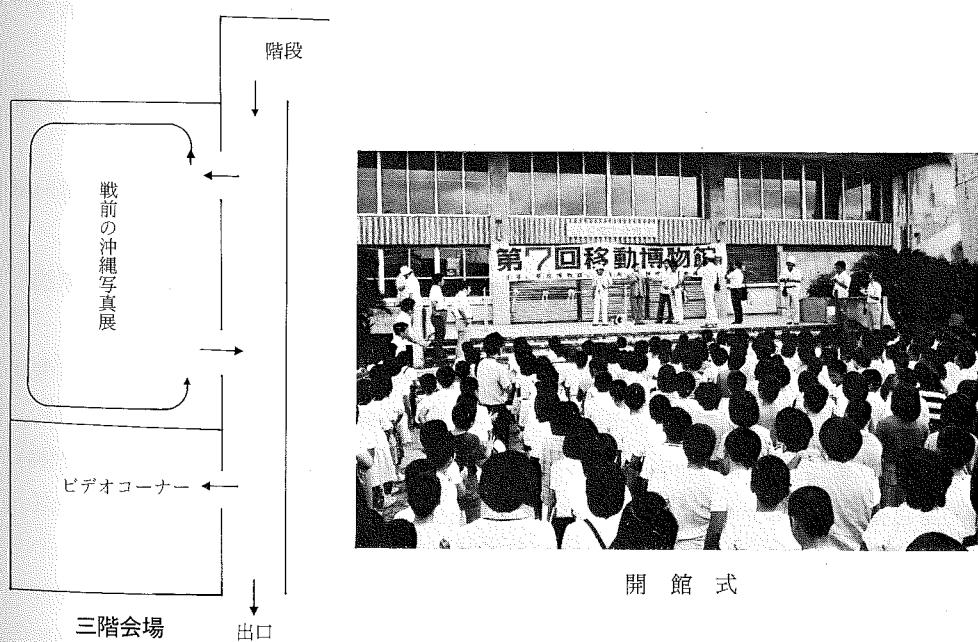
会場内



会場内



第7回移動博物館一階会場展示略図



(5) 教育普及

1 博物館文化講座 (昭和58年4月～昭和59年3月)

実施：原則として毎月第四土曜日

時間：午後2：30～4：30

場所：博物館講堂

- 〈1〉 第104回 4月23日 「蔡温とその政策」 講師：田里修（浦添市史編集嘱託）
参加人員57名
- 〈2〉 第105回 5月28日 「王朝時代の琉球漆器について」 講師：前田孝充（漆芸家）
参加人員62名
- 〈3〉 第106回 6月25日 「沖縄の地名」 講師：名嘉順一（那霸商業高校教諭） 参加
人員56名
- 〈4〉 第107回 7月9日 〈館外〉「宮古の史跡めぐり」 講師：仲宗根将二（平良市史
文化財審議委員），知念勇（当館学芸員） 参加人員35名
- 〈5〉 第108回 7月30日 〈館外〉「昆虫教室」 講師：長嶺邦雄（松島中学校教諭） 場
所：那霸市末吉公園，時間：午前10：00～12：00 参加人員50名
- 〈6〉 第109回 8月14日，21日 〈館外〉「陶芸教室」 講師：宮城勝臣（陶芸家） 場
所：一日目…県立博物館 二日目…宮城陶房，一日目…午前10：00～12：30，二
日目…午前10：00～12：00 参加人員93名
- 〈7〉 第110回 9月17日 「星の話」 講師：東盛良夫（琉球大学助教授） 参加人員128
名
- 〈8〉 第111回 10月22日 「ヒマラヤの風土から」 講師：目崎茂和（琉球大学助教授）
参加人員32名
- 〈9〉 第112回 11月26日 「弥生前期土器を出した真栄里貝塚について」 講師：高宮廣
衛（沖縄国際大学教授） 参加人員32名
- 〈10〉 第113回 12月17日 「近世沖縄の海運と商活動」 講師：高良倉吉（沖縄資料編
集専門員） 参加人員55名
- 〈11〉 第114回 1月28日 「沖縄の獅子（シーサー）」 講師：長嶺操（興南高校教諭）
参加人員50名
- 〈12〉 第115回 2月25日 「沖縄の両生爬虫類」 講師：当山昌直（当館学芸員） 参加
人員29名
- 〈13〉 第116回 3月25日 「那霸の今昔」 講師：崎間麗進（県文化財保護審議会専門員）
参加人員50名

2 特別講演会

〈1〉 4月24日（土） 午後2：30～4：30 参加人員48名

演題「近代日本の民間学と沖縄」 講師：鹿野政直（早稲田大学教授）

3 特別企画

〈1〉 標本鑑定会 期日：昭和58年8月28日（日）午前10：00～午後3：00
場所：当館一階ロビー 分野：岩石、鉱物、化石、植物、動物（貝類、昆虫類）
鑑定専門員：尾川原正司（琉球大学生物学科大学院生）黒住耐二（琉球大学生物
学科大学院生）佐藤文保（沖縄昆虫同好会）大城逸朗（当館学芸員）当山昌直（当
館学芸員）

（6）資料貸出

- （1）琉球切手原画「天女と琉球松」貸出
期間：昭和58年8月19日～23日 名称：宜野湾市「はごろも祭り」
主催者：沖縄郵政管理事務所 会場：宜野湾市郵便局
- （2）考古資料：「荻堂式土器」2点貸出
期間：昭和58年4月1日～59年3月31日 名称：「総合展示—日本のあけぼの—」
主催者：国立歴史民俗博物館 会場：国立歴史民俗博物館
- （3）化石岩石：アンモナイトほか32点貸出
期間：昭和58年10月25日～11月20日 名称：「島の成り立ち」展
主催者：石垣市立八重山博物館 会場：石垣市立八重山博物館
- （4）歴史資料「拓本」ほか123点貸出
期間：昭和58年12月27日～59年1月17日
主催者：沖縄県立海洋博記念沖縄館 会場：沖縄県立海洋博記念沖縄館
- （5）文化財写真「玉陵」ほか38点貸出
期間：昭和59年1月26日～2月1日 名称：文化財展「失われた首里」
主催者：那覇市教育委員会 会場：首里公民館
- （6）琉球切手原画「熱帯魚シリーズ」ほか25点貸出
期間：昭和59年2月6日～2月9日 名称：「復帰十周年記念沖縄郵政事業史」
発行記念資料展
主催者：沖縄郵政管理事務所 会場：沖縄郵政管理事務所

（7）燻蒸

当館では資料の保存をはかる上で、例年定期的に年2回の燻蒸を行なっている。昭和58年度の第1回目は、7月12～15日に当館始って以来の大がかりな燻蒸を実施した。従来行なっていた1階収蔵庫・地下収蔵庫・2階収蔵庫のほかに歴史展示室・民俗展示室をメチルブロマイドで燻蒸し、展示室・講堂・事務室はスミチオン酸煙霧による害虫駆除を行なった。第2回目は、沖縄県・熊本県交流展「沖縄の美」に出陳した資料が戻ってきた後の12月23・24日の両日に実施し、1階及び地下収蔵庫の燻蒸、展示室その他を煙霧による害虫駆除を行なった。なお、今回は2階収蔵庫だけの燻蒸を3月24・25日に実施した。

(8) 調査・研究

本年度（昭和58年4月～昭和59年3月）の各担当職員の調査研究等の活動状況は、以下の通りである。

1 調査研究

宜保榮治郎（副館長）

宜野湾市の芸能調査

期 間：昭和58年4月～昭和59年3月

費 用：宜野湾市教育委員会

目 的：宜野湾市史「民俗編」

研究成果：従来芸能調査が十分なされていない地域であったが、今回の調査により、盆踊の首里から地方への伝播の状況、農村の若者の毛遊びの実態とその場で謡われた歌謡、三月遊びの実態等が具体的にわかったこと。なお宜野湾市史の民俗編は昭和59年度に出版される予定である。

本部町瀬底の八月踊調査

期 間：昭和58年11月（旧暦8月11日）

目 的：沖縄県の広く分布する八月踊がどのような要素で構成されているか。

研究成果：瀬底島の8月踊りについてはこれまで十分な調査報告がなされていなかったが、今回の調査により、村の祭神であるお嶽と土帝君の関係、遊びと踊りの要素がわかった。

鹿児島県奄美大島郡瀬戸内町油井の八月踊調査

期 間：昭和58年9月21日（旧暦8月15日）

目 的：沖縄県に広く分布する八月踊と奄美大島に分布する八月踊の構造の比較。

研究成果：鹿児島県の民俗文化財に指定されている油井の八月踊と沖縄の八月踊の構造について、これまで十分比較したものがなかった。今回分ったことは、八月遊びから八月踊への移行の状態が十分につかめたことである。そのことについては沖縄民俗研究に発表する予定である。

韓国全羅南道扶安郡扶安邑内蓼里の綱引き調査

目 的：古くから伝わる沖縄の綱引きはどこから伝來したか。最も共通の要素は日本本土、韓国、中国（台湾を含む）の綱引きのうちどこであるかを比較研究する。

研究成果：これまで月刊紙や週間紙のグラビヤなどで紹介された韓国の綱引きは、雄、雌の綱で引くこと、綱引きの装束が沖縄と似ている事等漠然とした形でしか分らなかつたが、今回の調査でさらに具体的なことが分った。⑦小正月の綱引きであること①一本の綱を東西に分け東を雄綱・西を雌綱と呼びそれぞれ男性、女性に分れて引き合うこと、⑦綱を引く前に沖縄と同じく村の居住地を綱を担いで巡り歩くことである。なお詳しい報告は後日研究紙に発表の予定である。

下
上江洲均（学芸係長）

年中行事調査

期 間：昭和58年4月～8月

事業内容：宜野湾市史「民俗編」作成のための調査

内 容：前年度から引き続き宜野湾市史第5巻に掲載される予定。

大城逸朗（主任学芸員）

宮古上野村ピンザアブ遺跡発掘調査

期 間：昭和58年7月25日～8月1日

依頼機関：教育庁文化課

内 容：文化庁国庫補助による2年目の発掘である。前年に引き続き、洞窟内の粘土を搬出し、水洗作業を実施した。その結果、期待の人骨をはじめ、多数のノロジカ、イノシシ、ケナガネズミそれに小型獣類骨を採取した。それぞれについては、現在分類の途中である。なお、報告書は、昭和59年度作成の予定。

宜野湾市内洞穴調査

期 間：昭和58年10月～昭和59年1月

依頼機関：宜野湾市教育委員会

内 容：市内の文化財分布調査の一環として実施した。特に、米海兵隊所属の普天間飛行場内を中心に調査し、市内で総数74ヶ所の洞穴を確認した。その中で、主要なものについては詳細な形態測量を行ない、図面を作成した。また、今回の調査で、既知るものを含め20ヶ所の洞穴遺跡及び化石産地を確認した。なお、結果は、宜野湾市文化財調査報告書第6集としてまとめた。

知念勇（主任学芸員）

沖縄県の土器目録作成調査

期 間：昭和58年10月～昭和59年3月

調査員：石堂徳一、下地和宏、上地千賀子

内 容：昭和58年度に文部省国庫補助事業として実施されたもので、県内の博物館等の施設に収納されている土器の目録作成調査。

調査施設：伊是名村教育委員会資料室、伊江村教育委員会資料室、読谷山村立歴史民俗資料館、琉球大学考古学研究室、沖縄県立博物館、教育庁文化課収蔵庫、沖縄国際大学考古学研究室、渡名喜村立歴史民俗資料館、平良市立歴史民俗資料館、上野村立農業資料館、城辺町教育委員会資料室、多良間村立歴史民俗資料館、石垣市立八重山博物館、八重山琉染、南島民俗資料館、安座間学氏所蔵、石垣市教育委員会、喜宝院竹富蒐集館、高嶺資料館。

研究成果：調査の結果は、昭和58年度、当館により「沖縄県の土器目録」が刊行された。

「大グスク展」開催に伴う準備調査

期 間：昭和58年7月～昭和59年3月

協 力：名嘉正八郎

事業内容：主として県内のグスクの表面調査、遺構の写真撮影、遺物採集、文献等の調査
調査地：伊計グスク、伊波グスク、浦添グスク、垣花グスク、玉城グスク、根謝銘グスク、津波グスク、親グスク、漢那グスク、今帰仁グスク、マシュク村跡遺跡、下田城遺跡、新本御嶽周辺遺跡、ウツオウ村跡遺跡、ナイサ遺跡、ペーミシユク村跡遺跡、ミントウハネマ遺跡、サキバル遺跡

研究成果：調査の結果は、昭和60年度の特別展で公表の予定。

上江洲敏夫（学芸員）

宜野座村の古文書調査

期間：昭和58年11月14日

調査者：池宮正治、当間恵喜

協力：宜野座村教育委員会

内容：宜野座村字松田公民館所蔵の組踊写本は、嘉慶23年（1818）仕立ての「本部大主」1冊、明治21年（1888）と大正年間に仕立てられた「高那敵打」4冊、表紙が欠落して内容が判明しない組踊写本1冊を確認。「本部大主」の写本は、奥書に古知屋村（現字松田）の青年達が仕立てたことが見えており、これより組踊りが地方で演じられるようになったある程度の時代推定が可能となる。この写本は現在確認される限り最古の組踊写本である。

許田正元氏（字松田2628-1）所蔵の古文書は、辞令書・家譜・家譜仕次・生子証文・名寄帳を確認。辞令書は①「船奉行脇筆者職補任辞令書」（順治10年正月10日。1653年）、②「読谷山間切の仲邑里主所安堵辞令書」（康熙5年丙子4月23日。1666年）、③「小祿間切の赤嶺里主所安堵辞令書」（乾隆7年壬戌12月15日。1742年）の3通であるが、保存状態が悪く、欠損箇所が多い。①の順治年間の辞令書は数が少なく貴重であり、③は康熙年間の辞令書としては、確認される限り最古のもの。断簡ではあったが、「許田村名寄帳」とおもわれるものが確認された。名寄帳のほとんどを失ってしまった今、断簡とはいえ貴重な経済資料である。その後、許田家文書は、昭和59年3月15日付で宜野座村指定文化財に指定されている。

研究成果：辞令書3通については、「辞令書等古文書調査補遺(二)」（沖縄県立博物館紀要第10号）で紹介した。

金石文遺品調査

期間：昭和59年1月～3月

依頼期間：教育庁文化課

調査員：崎間麗進・又吉真三・阿波根直孝・与那嶺美和子

内容：本県に所在する旧藩時代以前の金石文（梵鐘・石碑等）を調査対象とし、記録班が被対象物の実測・撮影等、採拓本班は拓本の採取。

調査
グス
跡、
ユク
部大
、表
、奥
り組
この
次・
10年
丙子
戌12
の順
、確
るも
重な
指定
第10
記録

調査の結果は、昭和59年度に教育庁文化課より調査報告が刊行される予定。^⑯～^⑲の当館所蔵品以外の拓本は文化課より当館へ寄贈された。なお、下記拓本資料のほかに①育徳泉碑②勸耕台碑③甘醴延齡碑④長多大父の墓碑⑤円寂鉄岩西堂和尚禪師墓碑⑥園比屋武御嶽石門扁額⑦玉城朝薰百年祭記念碑は当館の調査費用で別途に採拓した。

被拓物名：①改決羽地川碑記②山北今帰仁城監守来歴碑③オランダ人墓碑④金剛山碑⑤南無安弥陀仏碑⑥三府龍脈碑⑦本覚山碑文⑧壺川松尾碑文⑨安国山樹華木之記碑⑩板敷橋記碑⑪ようどれのひのもん（表）・極楽山の碑文（裏）⑫旧首里城正殿鐘⑬旧万寿寺梵鐘⑭旧天尊殿梵鐘⑮旧天妃宮梵鐘⑯旧臨海寺梵鐘⑰旧夷應寺梵鐘⑱旧天王寺梵鐘⑲旧円覚寺殿中鐘⑳琉球新建姑米山天后宮碑記㉑具志川間切小港松原之碑㉒泰山石敢当㉓具志川間切藏元移転碑㉔タカンダシ池の碑㉕宇座池の碑㉖新修美栄橋碑文記㉗石田城碑文㉘たまおどんのひもん㉙蔡氏大宗墳碑㉚尚豊王御代

当山昌直（学芸員）

伊平屋島・伊是名島の両生爬虫池相調査

期 間：昭和58年4月1日～昭和59年3月31日

調査費：文部省昭和58年度科学研究補助金（奨励研究（B））

目的：これまで専門調査がなされていなかった伊平屋島・伊是名島の両生爬虫類相について、何がどのようなところに生息しているか、明らかにする目的で調査を行なった。

研究成果：伊平屋島には両生類4属4種、爬虫類13属14種が生息し、伊是名島には両生類3属3種、爬虫類11属11種が生息していることがわかった。なお、両島に分布が予想されるヌマガエルは、いずれの島でも生息の確認ができなかった。移入されたウシガエルの影響によって激減した可能性がある。調査時に採集された標本はすべて当館に保管されている。

動物に関する琉球方言の基礎的調査研究

期 間：昭和58年10月15日～昭和59年10月14日

調査費：トヨタ財団昭和58年度研究助成

目的：消滅の危機に瀕している琉球方言のなかで、特に動物の方言について収集する。更に、方言の動物分類学的位置を明らかにすることを目的とする。

研究成果：調査は未だ中途であるので特筆すべき成果は得られていないが、パーソナルコンピューターによる調査結果の整理のための情報処理システムの目途ができた。

2 著作・論文

宜保榮治郎（副館長）

○山内盛彬旧蔵「御屏領工工四」について（沖縄県立博物館紀要第10号1984年3月）

上江洲均（学芸係長）

○「南島の生業とくらし」（「図節・民俗事典」、山川出版社、1983年4月）

知念勇（主任学芸員）

○「中国陶磁器の出土分布」他『沖縄歴史地図』考古編・柏書房（1983年8月）

○「沖縄県山下町洞穴遺跡」「探訪先土器の遺跡」株式会社有斐閣（1983年12月）

○「座喜味城跡」他『城と城下町』第10巻、小学館（1983年11月）

○多和田真淳・知念勇「多和田真淳調査収集の考古資料—III」『沖縄県立博物館紀要第10号』県立博物館（1984年3月）

当山昌直（学芸員）

○「Taxonomic reassignment of the colubrid snake, *Opheodrys kikuzatoi*, from Kume-jima Island, Ryukyu Archipelago」 Jpn. J. Herp. 10 (2) (1983年12月)

○「沖縄群島の両生爬虫類相（III）－渡嘉敷島・久米島－」沖縄県立博物館紀要 第10号 1984年3月

○「Habitat segregation observed in the breeding of five frog species dwelling in a mountain stream of Okinawa Island. Ann. Zoo. Jap., 56 (2)」（1983年6月共著）

(9) 刊行物

刊 行 物 名	種 類	発行部数	規格:頁数	内 容
第7回移動博物館	不定期	30,000	B5	展示を紹介したリーフレット
「新収蔵品展」	不定期	1,000	B5:5	新収蔵品を紹介する図録
企画展「琉球の漆工芸」	不定期	1,000	B5:53	企画展の資料を紹介した図録
館蔵品シリーズ3 紅型	不定期	1,000	変形:32	博物館資料を紹介した図録
沖縄県の土器（目録）	不定期	1,000	B5:180	土器調査の成果をまとめた図録
博物館だより16号	定期	1,000	B5:4	博物館活動の近況報告
博物館だより17,18号	定期	1,000	B5:6	博物館活動の近況報告
沖縄県立博物館年報No.16	定期	500	B5:54	前年度の博物館の活動状況報告
沖縄県立博物館紀要No.10	定期	1,000	B5:46	学芸員の調査研究報告

入館者数

(1) 入館者数

月別入館者数 (常設展)

	個 人				團 体				総 計				開館 日数	1 日 平均
	大 人	高 大 生	小 中 生	計	大 人	高 大 生	小 中 生	計	大 人	高 大 生	小 中 生	計		
58年4月	(26)			(26)	(130)			(12)	(142)	(156)		943	(12)	(168)
	4,230	210	585	5,025	820	733	698	2,251	5,050				25	291
	(21)			(21)	(163)			(32)	(195)	(184)			(32)	(216)
	5月	4,000	85	320	4,405	722	1,002	1,126	2,850	4,722		1,087	1,446	7,255
	6月	3,220	58	295	3,573	944	656	897	2,497	4,164		714	1,192	6,070
	7月	(14)	484	1,645	5,979	362	214	206	(56)	(70)		698	1,851	(70)
	8月	3,850	(17)	1,217	3,201	(17)	(289)	60	(164)	(453)	(306)	1,277	(164)	(470)
	9月	7,020	(8)		11,438	251		489	800	7,271		3,690	12,238	26
	10月	1,865	189	264	2,318	466	116	(45)	(230)	(193)		305	(45)	(238)
	11月	(35)	138	313	3,951	1,071	1,168	528	1,110	2,331		792	3,428	23
	12月	3,500	(61)	91	558	(61)	(458)	(35)	(237)	(44)	(281)	1,306	(44)	(316)
59年1月	4,090	4,739	2,308	1,151	3,902	7,361	6,398	4,037	4,571	2,111		2,111	7,988	24
	(9)	76	273	2,264	202	1,692	(5)	(41)	(499)	(519)		1,242	(41)	(560)
	2月	1,915	(3)	(3)	(107)	(107)	(31)	(31)	(138)	(110)		4,460	12,100	25
	3月	3,050	(13)	179	388	3,617	889	613	470	1,972	3,939	792	858	5,589
	計	3,826	157	400	4,383	1,278	110	442	1,830	5,104	267	842	6,213	24
	4月	(18)	1,457	785	8,094	2,017	3,724	768	6,509	7,869	5,181	(61)	(393)	562
	5月	5,852	(231)	4,341	9,027	59,786	11,330	11,239	(435)	(3,038)	(2,834)	15,580	1,553	14,603
	6月	46,418										20,375	93,703	279
	7月													336

() 内は無料扱い

曜日別入館者数 (常設展)

	個 人				團 体				総 計				開館 日数	1 日 平均
	大 人	高 大 生	小 中 生	計	大 人	高 大 生	小 中 生	計	大 人	高 大 生	小 中 生	計		
火	5,741	574	1,004	7,319	1,478	2,081	4,085	7,644	7,219	2,655	5,089	14,963	44	166
水	6,960	571	1,132	8,663	1,864	1,364	2,121	5,349	8,824	1,935	3,253	14,012	45	193
木	7,558	639	1,309	9,506	910	1,636	1,602	4,148	8,468	2,275	2,911	13,654	46	207
金	7,394	779	1,170	9,343	2,315	2,492	2,049	6,856	9,709	3,271	3,219	16,199	48	195
土	7,968	949	1,461	10,378	2,116	2,476	813	5,405	10,084	3,425	2,274	15,783	49	212
日	10,797	829	2,951	14,577	2,647	1,190	678	4,515	13,444	2,019	3,629	19,092	47	311
計	46,418	4,341	9,027	59,786	11,330	11,239	11,348	33,917	57,748	15,580	20,375	93,703	279	122

団体入館者数 (常設展)

	県 内						県 外						国 外						総 計							
	大 人	高 大 生	小 中 生	計	大 人	高 大 生	小 中 生	計	大 人	高 大 生	小 中 生	計	大 人	高 大 生	小 中 生	計										
年 月	团 体 数	人 員																								
	38年4月	1	2	2	72	5	569	8	643	25	784	5	661	4	129	34	1,574	1	34	43	2,251					
	5	3	165	2	94	10	972	15	1,231	13	557	4	908	2	124	20	1,589	1	30	1	36	2,850				
	6	7	344	0	0	11	773	18	1,117	9	552	6	1,656	1	122	16	1,330	2	48	1	2	3	50	37	2,497	
	7	8	248	0	0	7	205	15	453	4	114	4	214	1	1	9	326					24	782			
	8	8	191	2	60	11	247	21	498	3	60	0	5	242	8	302					29	800				
	9	3	125	0	0	2	528	5	653	6	253	3	116	0	0	9	369	1	88	15	1,110					
	10	3	90	0	0	12	1,798	15	1,888	23	981	9	1,168	0	0	32	2,149			47	4,037					
	11	14	684	1	41	41	3,846	56	4,574	28	1,618	6	1,110	1	27	35	2,755	1	6	1	29	2	35	93	7,361	
	12	3	67	0	0	1	5	4	72	3	129	11	1,692	0	0	14	1,821	1	6	1	19	2	25	20	1,918	
	59年1月	2	73	0	0	2	352	4	425	22	816	3	613	2	38	27	1,467	1	80	1	80	32	1,972			
	2	1	43	0	0	2	441	3	484	39	1,235	2	110	1	1	42	1,346			45	1,830					
	3	5	183	0	0	9	753	14	936	49	1,814	23	3,724	3	15	75	5,553	1	20	1	20	90	6,509			
	計	58	2,215	7	267	113	10,489	178	12,974	224	8,913	76	10,972	20	699	321	20,581	7	202	0	0	5	160	12	362	511

(2) 沖縄県内小・中・高校博物館見学一覧（昭年58年4月1日～昭和59年3月30日）

- 4月6日：城北小学校、24日：城北小学校25名、28日：南風原小学校191名、与那原小学校121名、沖縄工業高校電子科（1-5、1-6）74名
- 5月14日：城辺小学校54名、13日：神森中学校437名、17日：池間中学校30名、18日：久米島小学校28名、福嶺小学校24名、24日：松川小学校253名、25日：久松小学校27名、城辺中学校62名、29日：下地小学校33名、31日：恩納小学校58名、
- 6月2日：糸満南小学校207名、3日：砂川小学校39名、西辺小学校、宮原小学校50名、松川小学校六年239名、10日：西城小学校六年41名、16日：伊是名小学校六年42名、18日：渡名喜中学校35名、24日：仲里小学校五・六年64名、25日：粟国小学校六年23名、26日：多良間小学校34名
- 8月4日：古蔵小学校五年二組23名、
- 9月30日：豊見城中学校
- 10月2日：那覇中学校25名、6日：登野城小学校六年266名、14日：金武小学校六年138名、16日：白保小学校六年40名、18日：西原小学校三年185名、知念小学校三年109名、25日：上田小学校六年245名、喜屋武小学校五年44名、糸満南小学校221名、糸満小学校154名、26日：与那城小学校234名、28日：豊見城小学校233名
- 11月1日：天底小学校47名、天願小学校51名、上本部小学校47名、普天間小学校188名、宜野座小学校83名、有銘小学校30名、2日：瀬喜田小学校25名、真喜屋小学校30名、嘉芸小学校六年41名、稻田小学校六年29名、本部小学校六年148名、8日：久辺小学校六年60名、辺土名小学校52名、三和中学校166名、具志頭中学校150名、9日：西崎小学校三年161名、10日：牧港小学校三年171名、佐敷小学校三年123名、安慶田小学校三年214名、12日：真嘉比小学校六年185名、13日：越來中学校216名、15日：平敷屋小学校92名、天妃小学校四年152名、名護小学校六年187名、16日：与那原東小学校三年151名、コザ小学校四年144名、18日：羽地小学校六年62名、勝連小学校四年94名、22日：今帰仁小学校57名、兼次小学校34名、東江小学校174名、高嶺小学校31名、25日：北玉小学校四年124名、29日：山内小学校四年149名、30日：大宮小学校198名
- 1月31日：高良小学校三年308名
- 2月21日：石嶺小学校三年214名、28日：城西小学校三年237名
- 3月2日：馬天小学校六年104名、3日：城南小学校六年二組43名、7日：城東小学校三年229名、9日：沖縄女子短大附属高校26名、14日：松島小学校三年278名、15日：古蔵小学校三年38名、16日：古蔵小学校三年78名

収蔵資料

(1) 昭和58年度収蔵資料

昭和59年3月31日現在

分類	受理次第	購入	寄贈	収集	移管 その他	小計	総計
自然	地質	1	138		15	154	2,288
	動物	9	2,112	1	12	2,134	
	植物					0	
美術工芸	絵画		6			6	82
	書跡		2			2	
	彫刻					0	
	陶磁器					0	
	漆器		1			1	
	染織	64	9			73	
歴史			24			24	24
考古						0	0
民俗		1	85			86	86
総計		75	2,377	1	27	2,480	2,480

(2) 収蔵資料現在高

昭和59年3月31日現在

分類	受理次第	購入	寄贈	収集	移管 その他	小計	総計
自然	地質	629	409	7	17	1,062	7,641
	動物	884	4,366	467	12	5,729	
	植物	0	850	0	0	850	
美術工芸	絵画	59	85	1	0	145	4,290
	書跡	124	170	40	3	337	
	彫刻	4	22	138	0	164	
	陶磁器	415	757	251	490	1,913	
	漆器	219	120	156	0	495	
	染織	1,036	191	9	0	1,236	
歴史		399	1,064	280	73	1,816	1,816
考古		4	422	507	0	933	933
民俗		511	1,898	153	73	2,635	2,635
総計		4,284	10,354	2,009	668	17,315	17,315

(3) 昭和58年度新収蔵品目録

寄贈の部

分類	品名	数量	寄贈者	住所
自然	クロオビハゼ(新種)パラタイプ標本	2	明仁親王殿下	東宮御所
ノ	阿蘇山産輝石安山岩	52	熊本市立熊本博物館	熊本市
ノ	岩石・鉱物・化石	86	近畿地学会	兵庫県
ノ	八重山産セミ類	24	島村賢正	石垣市
ノ	沖縄産昆蟲標本	13	東清二	那霸市
ノ	沖縄島産のチョウとセミ	14	金城政勝	ノ
ノ	チャイロマルバネクワガタ	1	渡辺賢一	石垣市
ノ	オオゴマダラの黒化型	1	上杉兼信	中城村
ノ	沖縄産昆蟲	13	岩附信紀	那霸市
ノ	沖縄産昆蟲	66	新城安哲	ノ
ノ	沖縄産チヨウ類	245	比嘉正一	浦添市
ノ	昆蟲類標本	1,727	佐藤文保	那霸市
ノ	アカシヨウビン	1	比嘉弘勇	豊見城村
ノ	西表島産リュウキュウイノシシ	1	本盛之規	竹富町
ノ	ホウロクシギ	1	糸數和夫	具志川村
ノ	ズアカアオバト	1	伊計光義	具志川市
ノ	タグ	1	仲宗根一雄	具志川村
ノ	シジユウカラ	1	幸喜俊治	那霸市
美術工芸	鯉の図	5	大浜道子	ノ
ノ	鄭嘉訓書	2	ノ	ノ
ノ	琉球入江戸上り行列図	1	上原秀世	大阪府
ノ	黒漆草木人物螺鈿椀	1	堀尾青史	東京都
ノ	男物帶	9	吉戸直	那霸市
歴史	宜野湾間切新城里主所安堵辞令書	19	安良城政効	ノ
ノ	朱喜筆(押本)	5	大浜道子	ノ
民俗	アルマジロ皮のハンドバッグ	3	中村隆志	ノ
ノ	花生	1	喜納賢栄	ノ
ノ	木椀	2	大城昌隆	中城村
ノ	獅子頭	1	大城昌榮	中城村

分類	品名	数量	寄贈者	住所
民俗	民家模型他	4	仲松蒲戸	中城村
〃	張り子獅子	1	那霸中学校	那霸市
〃	石厨子他	4	土田操	大阪府
〃	インドネシアのサロン	1	崎間敏勝	浦添市
〃	素焼御殿型厨子甕他	8	翁長正昭	豊見城村
〃	ネパールの笛	1	徳田安隆	那霸市
〃	インドの頭上運搬用具	1	宮城篤正	浦添市
〃	ピラ	1	糸数鍛治屋	石垣市
〃	しめ縄	1	宝花園	〃
〃	竹富のピラ他	4		
〃	米国ムング族の「布の花」	1	ルイズコート	米国
〃	木綿袷紺地子供着物他	27	吉戸直	那霸市
〃	本御殿型厨子甕他	12	仲本政裕	〃
〃	ツノ型御殿型厨子甕他	12	伊波好子	〃

収集の部

分類	品名	数量
自然	ヒヨドリ	1

移管・交換その他の部

分類	品名	数量
自然	中国産爬虫類(中国四川省)	12
〃	宮古ピンザアブの港積世人頭骨レプリカ	10
〃	化石鹿骨格復元レプリカ	5

購入の部

分類	品名	数量
自然	アンモナイト化石	1
〃	狩猟鳥獸剝製	9
美術工芸	牡丹文様紅型衣裳(木綿)他	64
民俗	ミーフガー鉗	1

4 博物館所蔵国・県指定文化財一覧表

(1) 国指定文化財 重要文化財

昭和59年4月1日現在

種別	名称	員数	指定年月日	所在の場所	所有者
古文書典籍 ノリ	おもろさうし 混効驗集	22冊 2冊	昭48.6.6	県立博物館 ノリ	沖縄県 ノリ
工芸	銅鐘（旧首里城正殿前鐘） 梵鐘（旧円覚寺殿前鐘） 梵鐘（旧円覚寺殿中鐘） 梵鐘（旧円覚寺樓鐘）	1口 3口	昭53.6.15 ノリ	県立博物館 ノリ	沖縄県 ノリ

(2) 県指定文化財 有形文化財

種号	名称	員数	指定年月日	所在の場所	所有者
彫刻	木彫円覚寺白象並びに趣意書	1軀1枚	昭33.3.14	県立博物館	沖縄県
〃	世持橋勾欄羽目	1括	〃	〃	〃
絵画	絹本着色花鳥図(殷元良筆)	1幅	昭54.4.9	県立博物館	沖縄県
〃	紙本着色雪中雉子の図(殷元良筆)	〃	〃	〃	〃
〃	紙本墨画竹の図(殷元良筆)	〃	昭57.4.1	〃	〃
〃	紙本着色奉使琉球図(朱雀年筆)	1巻	〃	〃	〃
工芸	三味線江戸与那	1挺	昭33.8.15	県立博物館	沖縄県
〃	聞得大君御殿雲龍黄金簪	1本	昭33.3.14	〃	〃
〃	黒塗螺鈿遊雁絵大文庫	1合	昭31.12.14	〃	〃
〃	黒塗堆錦山水絵大文庫	〃	〃	〃	〃
〃	黒塗螺鈿雲龍文内金箔蓋付椀	1口	〃	〃	〃
〃	枝梅竹文赤絵椀	〃	昭54.9.3	〃	〃
〃	線彫染付魚文皿	〃	〃	〃	〃
〃	色象嵌粟絵菊花皿	〃	〃	〃	〃
〃	象嵌色差面取抱瓶	〃	〃	〃	〃
典籍	評定所格護定本 中山世鑑	6冊	昭31.12.14	県立博物館	沖縄県
	〃 中山世鑑	19冊	〃	〃	〃
古文書	宮古島下地の首里大屋子への辞令書	1幅	昭31.12.14	県立博物館	沖縄県
〃	明孝宗より琉球国中山王尚真への勅書	1巻	昭49.11.11	〃	〃
〃	伊平屋島仲田の首里大屋子への辞令書	1幅	昭53.4.1	〃	〃
〃	羽地間切の屋我のろへの辞令書	1幅	昭56.3.30	〃	〃

当館関係条例規則(抄)

○沖縄県立教育機関設置条例(昭和47年5月15日)
条例第24号

最終改正 昭和53年3月29日条例第16号

(趣旨)

第1条 この条例は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)

第30条、図書館法(昭和25年法律第118号)第10条及び博物館法(昭和26年法律第285号)

第18条の規定に基づき、教育機関の設置について必要な事項を定めるものとする。

第5条 歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管し、及び展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供するとともに、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、併せてこれらの資料に関する調査研究を行うため、博物館を次のとおり設置する。

名 称	位 置
沖縄県立博物館	那覇市首里大中町1丁目1番地

2 博物館は、博物館法第3条第1項各号に掲げる業務を行う。

(博物館協議会)

第6条 博物館に、博物館協議会を置く。

2 博物館協議会の委員の定数は、10人以内とする。

3 委員の任期は、2年とし、欠員の生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 前2項に定めるもののほか、博物館協議会の組織及び運営に関して必要な事項は、教育委員会規則で定める。

○沖縄県立教育機関組織規則(昭和47年5月15日)
教育委員会規則第2号

最終改正 昭和53年4月1日教育委員会規則第1号

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄県立教育機関設置条例(昭和47年沖縄県条例第24号)に規定する教育機関組織及び分掌事務その他必要な事項を定めるものとする。

(博物館)

第2条 沖縄県立博物館(以下「博物館」という。)に、次の係を置く。

庶務係

学芸係

教育普及係

2 博物館の所掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 予算、決算その他会計事務に関すること。
- (2) 公印の管守に関すること。
- (3) 施設設備の管理に関すること。
- (4) 職員の服務及び福利厚生に関すること。
- (5) 博物館協議会に関すること。
- (6) 博物館資料の収集、保管及び展示に関すること。
- (7) 博物館資料の利用相談に関すること。
- (8) 博物館資料の技術的、専門的な調査研究に関すること。
- (9) 博物館資料の鑑査、貸出し及び交換に関すること。
- (10) 博物館資料に関する解説書、目録研究報告書等の作成及び配布に関すること。
- (11) 展覧会、講習会、映写会及び研究会等の主催並びに援助に関すること。
- (12) 学校その他の教育機関との連絡及び協力に関すること。
- (13) 前各号に定めるもののほか、博物館に関する必要な事務に関すること。

○沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和47年5月15日）
〔沿革〕 昭和53年9月28日教育委員会規則第5号改正

沖縄県立博物館の管理に関する規則をここに分布する。

沖縄県立博物館の管理に関する規則

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄県立博物館（以下「博物館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(管理の責任)

第2条 館長は、博物館の施設、設備（備品を含む。以下同じ。）を管理し、その整備に努めなければならない。

(諸帳簿)

第3条 館長は、施設、設備に関する諸帳簿を整理し、その現有状況を明らかにしておかなければならない。

(施設設備の亡失)

第4条 館長は、火災その他の事由により施設、設備の全部若しくは一部が損傷し、又は亡失した場合には、速やかに教育長に報告し、その指示を受けなければならない。

(警備防災の計画)

第5条 消防法（昭和23年法律第186号）第8条第1項に規定する防火管理者は、館長とする。

2 館長は、年度の始めに警備及び防火その他の防災の計画を作成し、教育長に報告しなければならない。

(当直)

第6条 館長は、休日その他正規の勤務時間外において職員を輪番で日直又は宿直を命ずることができる。

2 前項に定めるもののほか、宿日直勤務については、職員服務規程（昭和47年沖縄県教育委員会訓令第4号）の定めるところによる。

(職員の服務等)

第7条 職員の服務、勤務時間及び勤務時間の割振りについては、別に定めるところによる。

(文書)

第8条 文書の処理については、教育庁文書管理規程（昭和53年沖縄県教育委員会訓令第2号）の定めるところによる。

(開館時間)

第9条 博物館の開館時間は、午前9時から午後4時30分までとする。ただし、館長は、都合によりこれを変更することができる。

(休館日)

第10条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

(1) 定期休館日 月曜日

(2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する日

(3) 慽靈の日 6月23日

(4) 年始休館日 1月2日から1月4日まで

(5) 年末休館日 12月28日から12月31日まで

(6) 臨時休館日 特別の事情により、館長が休館を必要と認めた日

2 前項第2号及び第3号に規定する休館日が定期休館日に当たるときは、その日の後日において最も近い休館日でない日をもって、これに替えるものとする。

(寄贈及び寄託)

第11条 博物館に、資料を寄贈又は寄託しようとする者は、寄贈申込書（第1号様式）又は寄託申請書（第2号様式）を提出しなければならない。

2 受託を決定したものについては、受託承認書（第3号様式）を交付するものとする。

3 前項の規定により、寄贈を受けた資料は、理由のいかんにかかわらず返却しない。

(寄託資料の保管)

第12条 寄託された資料の管理は、博物館所蔵の資料の管理に準ずるものとする。

(寄託資料の返付)

第13条 寄託資料は、寄託者の請求又は博物館の都合により返付する。

(経費の負担)

第14条 寄贈者は寄託に要する経費は、寄贈者又は寄託者の負担とする。ただし、館長が必要と認めた場合はこの限りでない。

第15条 寄託資料が火災その他の不可抗力により、滅失し、汚損し又は損傷したときは、博物館は損害賠償の責任を負わない。

(入館券の交付)

第16条 博物館の展示品を観覧しようとする者が、所定の入館料を納付した場合は、入館券を交付するものとする。

(入館の禁止等)

第17条 精神病患者、伝染病患者、酩酊者その他館内の秩序を乱す行為のあると認められる者に対し館長は、入館を禁止し、又は退館させることができる。

(施設使用の許可等)

第18条 博物館施設（講堂、第5陳列室等で団体又は個人が使用するものをいう。以下同じ。）を使用しようとする者は、あらかじめ使用許可申請書（第4号様式）を提出し、館長の許可を受けなければならない。

2 館長は、次の各号に一に該当するものを除き、その使用目的に合致し、住民の教育、学術及び文化の発展に寄与するものと認められる場合に博物館施設の使用を許可することができる。

- (1) 専ら営利を目的とする事業を行うもの
- (2) 特定の政党の利害に関する事業を行い、又は公務の選挙に関し、特定の候補者を支持するもの
- (3) 特定の宗教を支持し、又は特定の教派、宗派若しくは教団を支持するもの
- (4) 社会教育上不適当であると認めるもの

3 館長は、博物館施設を使用させる場合においては、博物館施設の維持運営のために必要なときに限り、使用の対価を徴収することができる。

(原状回復の義務)

第19条 使用者は、施設の使用を終わったときは、使用に係る施設及び付属設備を原状に復さなければならない。

(損害の賠償)

第20条 観覧者又は使用者が施設、設備及び展示品等を損傷し、若しくは紛失したときは、その損害を賠償しなければならない。ただし、やむを得ない理由があると認めたときは、館長は、これを減額し又は免除することができる。

(報告)

第21条 館長は、博物館の月別利用状況報告書を翌月10日までに、教育長に提出しなければならない。

(補則)

第22条 この規則の施行に関し、必要な事項は、教育長の承認を得て館長が定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

第1号様式(第11条関係)

博物館資料寄贈申込書	昭和年月日
沖縄県立博物館長 殿	
申込者	
住所 氏名	
私所有の下記の資料を沖縄県立博物館へ寄贈したいので、受領されるよう申込みます。	
記	
1 種別	1 種別
2 作者名	2 作者名
3 作品名	3 作品名
4 製作年月日	4 製作年月日
5 附属品	5 附属品
6 資料の所在地	6 資料の所在地
7 時価見積額	7 寄託期間
8 寄贈の理由	8 寄贈の理由

第2号様式(第11条関係)

博物館資料寄託申請書	昭和年月日
沖縄県立博物館長 殿	
申請者	
住所 氏名	
私所有の下記の資料を沖縄県立博物館へ寄託したいので、受託くださるよう申請します。	
記	
1 種別	1 種別
2 作者名	2 作者名
3 作品名	3 作品名
4 製作年月日	4 製作年月日
5 附属品	5 附属品
6 資料の所在地	6 資料の所在地
7 寄託期間	7 寄託期間
8 寄贈の理由	8 寄贈の理由

受諾書	昭和年月日
上記の品寄贈を受諾いたします。ただし、寄贈を受けた資料については、沖縄県立博物館の管理に関する規則(昭和47年沖縄県教育委員会規則第13号)第11条第3項の規定により返却されません。	
昭和年月日	昭和年月日
沖縄県立博物館長	(印)

第3号様式（第11条関係）

博物館資料受託承認書		昭和 年 月 日
殿		沖縄県立博物館長
		（印）
昭和 年 月 日付け申請のあつた博物館資料の寄託について		
では、下記により受託します。		
記		
1 種別	2 作者名	3 作品名
4 製作年月日	5 附属品	6 受託期間
7 備考		

第4号様式（第18条関係）

博物館施設使用許可申請書		昭和 年 月 日
申請者氏名		（印）
電話		
下記により貴館施設を使用したいので、許可してくださるようお願いします。		
記		
1 使用者	団体名	及び
	代表者名	印
	住所	電話
2 使用目的		
3 使用する施設：1 ホール	2 臨時陳列室	
4 使用する日時及び期間		
自：昭和 年 月 日	午	時 分 ()
至：昭和 年 月 日	午	時 分 分
5 予定参加人員 人		
6 その他必要な資料（プログラム等）		
7 許可申請の（ ）使用の件、申請どおり許可します。		
月 昭和 年 月 日	許可書	
沖縄県立博物館長 （印）		

○沖縄県立博物館協議会規則（昭和47年10月2日）
(教育委員会規則第29号)

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄県立教育機関設置条例（昭和47年沖縄県条例第24号）第6条第4項の規定に基づき、博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(組織) 第2条 協議会は、委員10人で組織する。

(委員)

第3条 協議会の委員は、沖縄県教育委員会が任命する。

2 委員は、非常勤とする。

(任期)

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第5条 協議会に会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選による。

3 会長は、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、会長の職務を行なう。

(会議)

第6条 協議会は、必要に応じ会長が招集する。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(費用弁償)

第7条 委員は、その職務を行なうために必要する費用の弁償を受けることができる。

(庶務)

第8条 協議会の庶務は、沖縄県立博物館において処理する。

(雑則)

第9条 この規則に定めるもののほか、議事の手続その他の運営に関し必要な事項は、会長が協議会にはかって定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

沖縄県立博物館協議会
会長 安次富長昭 殿

博物館法第20条第2項の規定により次のことをについて諮問する。

博物館の施策について

昭和58年11月21日
沖縄県立博物館
館長 大城立裕

沖縄県立博物館
館長 大城立裕 殿

昭和58年11月21日付で諮問のあったことに対し博物館法第20条
2項の規定により次の通り答申する。

昭和58年11月29日
沖縄県立博物館協議会
会長 安次富 長昭

答 申

はじめに

博物館法によれば「博物館」とは、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を保管し、展示して、教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーションなどに資するために必要な事業を行ない、あわせてこれらの資料に関する調査研究を目的とする機関である、と規定されている。沖縄県立博物館でもこれまでその趣旨に沿って運営されてきたが、上記の目的は一般的な博物館としての性格を示したもので、現今に於ける県民の文化施設に対する要求は、より専門的な性格を持つ博物館の設置を要望しており、当館は、これらの要望をも十分に配慮して将来の施策を持つべきだと考える。

一、博物館の将来について

現在の県立博物館は、所在地が首里という歴史的な地域に位置していることを考慮に入れて、将来は専門的な性格を持った歴史博物館とする事が得策だと考えられる。理由は、現在の県立博物館は、唯一の県立博物館であるため、人文、自然を柱にする総合博物館として運営されてきたが、11,246m²の敷地と、4,865m²の建物では到底その性格に沿うことは無理であり、施設として充足するとは考えられないからである。なお施設を拡張して現在の総合博物館としての性格をそのまま持続すべきであるという意見もあるが、その条件を満たすには敷地の移転という重要な問題がある。

二、建築構想について

建築後30年目にあたる昭和71年を伏目として改築する方向で構想を進めることを提言する。

理由は、昭和41年に新築した1階部分と昭和48年に増築した2階部分を含め、各展示室の動線が悪いことと、収蔵庫が狭隘、ホール機能の悪さが指摘されるからである。

三、環境整備について

当館の敷地は、旧城御殿という由緒ある場所であるので現在残っている石垣の補修も併せて将来は環境整備をしていくことが望ましい。

四、展示について

現在の展示は、並列的に展示した物の説明に終わっている印象を受けるので、時代に即応した展示方法に切り替えるべきである。なお文字の十分読めない児童や身体障害者、外国人などにも十分理解できるような視聴覚機器や説明板を備える必要がある。

五、緊急課題

以上のべたことは、県立博物館の当面する問題のすべてであるといってよいが、今日、県は昭和62年国体に向けて、総力をあげている折柄、その計画中のスポーツ芸術部門の展示を悔いなく成功させるためには、これらの問題を緊急に解決する必要がある。

○沖縄県立教育機関使用料徴収条例(昭和47年5月15日
条例第37号)

最終改正 昭和54年3月29日条例第16号

(趣旨)

第1条 この条例は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第228条の規定に基づき、教育機関の使用料の徴収について必要な事項を定めるものとする。

(使用料の徴収)

第2条 教育委員会は、教育機関の施設を使用する者から、別表第1又は別表第2に定める額の使用料を徴収する。

2 教育委員会は、博物館において特別に展示する資料を観覧させる場合には、前項の規定にかかわらず、500円を超えない範囲内でその都度入館料を定め、徴収することができる。

(使用料の納期)

第3条 使用料は、前納とする。

(使用料の減免)

第4条 第2条の規定にかかわらず、教育委員会会、貧困その他特別の理由があると認める者に対しては、使用料の全部又は一部を免除することができる。

(使用料の不還付)

第5条 既に納めた使用料は、還付しない。ただし、教育委員会が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(罰則)

第6条 虚偽その他不正の行為により使用料の徴収を免れた者は、その徴収を免れた金額の5倍に相当する金額以下の校料に処する。

(教育委員会規則への委任)

第7条 この条例に定めるもののほか、使用料の徴収に関して必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(昭和53年3月29日条例第16号抄)

- 1 この条例は、昭和53年4月1日から施行する。
- 2 この条例は、昭和54年4月1日から施行する。

別表第1(博物館の入館料)(第2条関係)

使 用 者	入 館 料
一般	100円
大学生及び高校生	50円
中学生及び小学生	20円
団体(20人以上)	1人につきそれぞれ上記入館料の2割引

教育機

に定め

頂の規

ができ

と認め

ると認

た金額

委員会

沖縄県立博物館年報 No.17 (昭和58年度)

昭和59年6月30日発行

編集・発行 沖縄県立博物館

住 所 沖縄県那覇市首里大中町1の1

㈹ 903 TEL: 0988-84-2243

印 刷 文進印刷株式会社

住 所 沖縄県那覇市上間567

TEL: 0988-55-2323 (代)